



「新しい10年」

2007年から始まった DO-IT (Diversity, Opportunities、Internetworking and Technology) Japan は、2017年の今年から新しい10年紀に入りました。今年からの DO-IT は、多様な価値観と社会的排除を超える取り組みが集うハブとなることを志向します。 多様な価値観と社会活動、そしてそこに関わる人々との出会いが広がることで、障害のある若者たちの中から、未来を生み出すエンジンとなる力が生まれることを期待しています。ひとつのコミュニティとして、そのような機会 (opportunities) を生み出せているかどうかを常に自問しながら、DO-IT はこれからの新しい10年を駆け抜けていきたいと思います。

しかしながら、これまでと何も変わらない、大切なこともあります。それは自立や自己決定、自己権利擁護(セルフ・アドボカシー)と、それらにまつわるテクノロジーや社会資源の利用のあり方というテーマです。そして、障害のある若者たちがそれらについて考えを深めていくには、社会全体にエンパワメントに関わる取り組みが不可欠です。人間の平等な権利を価値の根源に置き、あらゆる背景を持つ人々が参加することを前提とすることから、すべての判断を出発させる社会。「自分が参加することは勘定に入れられていないのだ」と憂うのではなく、たとえ何か問題があろうと、「まずは一度関わってみよう、問題があれば変えることはできるはずだ」と信頼できる社会。今後もDO-ITの仲間たちと共に、小さな一歩から、そんな社会を目指す活動を続けていきたいと思います。

これまでの DO-IT の活動の中で感じてきたことは、どんなに優れた教師も、障害のある先輩たちから示される

生き方のロールモデルが障害のある子どもたちに与える 強烈な気づきは超えることができない、ということです。 小学校から中学校、高校、大学、そして就労へと、子ど もたちが大人になっていくまでの長い期間に、DO-IT は コミュニティとして伴走したいと願っています。しかし、 障害のある若者たちの先回りをして、向かうべきところへ 誘導することはしません。先の見えない悩みの中で、様々 な価値観と出会い、せめぎ合い、ぶつかり合いながら、 自らの生きる価値を見い出していくのは、障害のある若 者自身に他ならないからです。彼らの人生は彼ら自身のも のです。

「障害のある若者たち」という言葉を使いましたが、本来は、社会的に排除されてきた背景を持つ人々のいずれにも当てはまり得ることです。ただ、「障害」という概念は、あらゆる社会的排除に共通する部分を持ち、これまでの歴史と活動、思索の積み重ねから、残された壁を越える智恵を持ち得てきたと私は信じています。Disability (障害) は Diversity (多様性) の包摂を生み出す力を持っています。ロールモデルが一人一人に気づきを生み出す力を持つ背景には、「私たち」を明らかに感じられる当事者性の共有があります。しかし「障害のある私たち」という当事者性を出発点として、排他ではなく Diversity を包摂する「私たち」の広がりもまた、存在しています。その広がりの存在を、ただの言葉尻ではなく、私たちがリアリティと確信のあるものとできる10年とすることもまた、追求していきたいと思います。

DO-IT Japan ディレクター 近藤武夫

DO-IT Japan 2017 REPORT

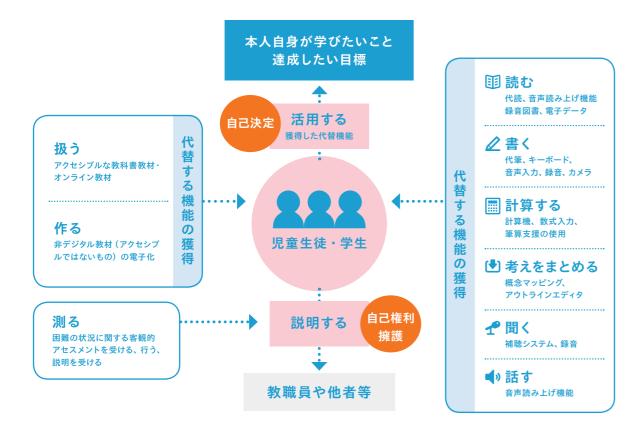
Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology

巻頭言「新しい 10年」	U2
DO-IT Japan のコンセプト · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	04
DO-IT Japan の 3 つのプログラム ·······	05
スカラープログラム ・・・・・・	06
01:夏季プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	07
夏季プログラムを終えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
アコモデーションコース · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	23
02: 夏後の活動	24
03:スカラーのチャレンジ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
PAL プログラム · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	34
共催・協力・後援の紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
DO-IT Japan の概要 ······	38



DO-IT Japan のコンセプト

自己決定と自己権利擁護



DO-IT Japan が大事にしているコンセプトは「自己決定」と「自己権利擁護(セルフ・アドボカシー)」です。

学びたいことや達成したい目標は、自分自身が決定権を持っています。障害のある児童生徒・学生た

自分が必要とする配慮は、遠慮せず必要だと相手に求める権利があることについても学びます。周囲 からの助言はもちろん、必要な配慮や支援は、自分から周囲に求めて良いものということを、仲間たち と共に実感を持って感じ、実際に自ら求めていく(セルフ・アドボカシーを行う)機会を設けています。 夏季プログラムの全体を通じて、また期間中に行われる一般公開シンポジウムに参加して、スカラーが 周囲や社会に対して配慮を求めたり自らの意見を発信することは、障害のある人・ない人、また社会的 な立場や意見が異なる人々、そして様々な困難のある人が、ともに生きるためには、どのような社会の あり方を目指すべきかを考える機会となっています。

DO-IT Japan の3つのプログラム

DO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan は、 障害のある学生の中から、将来のリーダーとなる人材を養成することを目的としたプログラムです。 DO-IT Japan は、大きく分けて3つのプログラムから構成されています。

Scholar Program (スカラープログラム) ・・・・・・・・ 障害のある児童生徒・学生に直接プログラムを提供する

PAL Program (パルプログラム)・・・・・・・・・・・ 障害のある児童生徒・学生やその保護者に情報を届ける

情報を広く届け、最新のテクノロジーと教育を通じて、 障害のある学生をエンパワメントし、障害のある学生の可能性を最大化します。

Scholar Program メインプログラム

毎年春に 募集アナウンス

全国から選抜された障害や病気のある中学生、高校生 高卒生、大学生・大学院生の中から、将来の社会のリー ダーとなる人材を養成することを目的としたプログラム です。選抜を受け、プログラムに参加した学生は「スカ ラー」と呼ばれ、テクノロジーの活用を中心的なテーマ に据えた様々なプログラムに参加することができます。

PAL Program

ホームページ にて登録可能

テクノロジーを活用した学びの保障について学ぶ機会 を、できる限り多くの、困難を抱える学生に届けるこ とを目的としたアウトリーチ・プログラムです。多様 な障害を原因として、学びの困難を抱える小・中学生 とその保護者、高校生・高卒生、大学生・大学院生(本 人) であれば、誰でも登録できます。

School Program

障害のある学生たちの社会参加を支援・促進する活動 を DO-IT Japan 協力企業の方々と拡げていくための枠 組みとしてスタートしたプログラムです。学校に対して テクノロジーやサービス、支援に関するノウハウを届け ることで、配慮ある社会環境の整備を支援することを 目的としています。

ちには、自己決定を問われたり、自己決定が尊重される経験が必要です。自分が学ぶために必要な方 法を、多様な方法から選択するのも自分自身。周りに伝えたいことや求めたい配慮の内容を考えることも、 自分自身が決定権を持っています。DO-IT のプログラム中では、ちょっとした生活の場面場面から、自 己決定する機会を設けています。自己決定についてチャレンジして失敗することもまた、大きな学ぶ機 会であると考えています。

Scholar Program

中学生、高校生・高卒生、

大学生・大学院生対象

PAL Program

小・中学生とその保護者、 高校生・高卒者、

大学生・大学院生対象

School Program

学校、教員対象

Scholar Program

スカラープログラム

スカラープログラムは、障害や病気のある児童生徒学生の高等教育への進学とその後の就労への移行支援を通じ、将来の社会のリーダーとなる人材を育成するため活動を行っています。 毎年夏に開催される夏季プログラムの参加に加え、インターネットを活用したオンラインメンタリング、ギャザリング、海外研修など、年間を通じたプログラムが開催されます。プログラム内容は「テクノロジーの活用」を中心的なテーマに捉え「セルフ・アドボカシー」、「障害の理解」、「自立と自己決定」などのテーマを掲げています。

今年は、選抜された新規スカラー(17スカラー)7名と、将来スカラープログラムへの参加を希望する小学生(アコモデーションコース受講生)11名と共に、2017年度を駆け抜けました!



Scholar Program

夏季プログラム

今年選抜されたスカラー 7 名は、全員高校生。出身地も学年も障害も様々な彼らたち。夏季プログラム参加に先立ち、7 月の毎週金・土曜日に、インターネットを通じ、事前オンライン会議 (プリプログラム) に参加!「インターネットやテクノロジーの基本的操作」「高等教育機関や社会における障害のある人への配慮の現状」「自分自身の障害と求める配慮の説明の仕方」「思考やスケジュールの整理・準備」などを意見交換しました。夏に東大先端研に集合!それぞれのスタートを切りました。

ログラム(1)日目

日目 【障害・自己の理解を深める】

2017.8.6 SUN



レセプション・プログラムガイダンス



トークセッション"自立と依存"

熊谷晋一郎 DO-ITスタッフ

「自立」とは一体何なのでしょうか。「自立している」ことの反対は「依存している」ことであり、悪いことなのでしょうか。熊谷先生は「依存症とは何かに依存する病ではなく、依存先が得られない病だ」と語りかけます。熊谷先生は、またスカラーたちに投げかけます。「では、自立の類義語を想像するとどんな言葉が浮かんできますか」。ご自身の幼少期から現在の研究活動を話題提供いただきながら、スカラーたちと、(わたし)の在り方を見直すヒントを見つけていく時間となりました。







移動・ホテルチェックイン

次のプログラム会場は、ホテル。何時に大学を出よう。誰と行こう。どんな手段があるかな。 途中どこか寄れるかな・・。決め手は、自分次第!公共交通機関をうまく利用したり、周囲 に支援を依頼したり、身近なテクノロジーを活用したり・・・スカラーたちは、先の予定を考 慮し、自ら考えたプランで移動しました。また、支援ニーズや移動ペースが違う仲間との移 動は、自らの困難や社会サービスのあり方について気づくきっかけとなりました。





アイスブレイク

<mark>尼加良司・奥山俊博・蔵本紗希</mark> DO-IT スタッフ

緊張した1日をほぐすパーティ! 晩御飯を持ち寄って、都内の夜景を見ながら、スカラーやスタッフがゆっくり話す時間となりました。 学校の様子や好きなこと、困っていること、やりたいこと…お互いのことをよく知る時間となりました。



6 スカラープログラム | 夏季プログラム 1日目 **7**

10:00

大学講義体験 · 研究室見学 合成生物分野 / 谷内江研究室



東京大学

新しい合成生物学とデータマイニングの技術を既存のテクノロジーと統合的に組み合わせて分子・細胞・細胞分化計測のための新しい実験・テクノロジーを創出し、これまで観察不可能であった生命科学現象のベールを解くことに取り組んでいる研究室。

最先端の研究をされている先端研の先生のラボに訪問し、テクノロジーを活用しながら講義を受講!「見て」「触って」「ディスカッションする」、高校とは全く違う、リアルな大学の授業を体験しました。DNAを始めとする細胞の様子から、研究に携わりはじめたロボットとの関わり方などをご講義いただきました。先生が研究に対する目標やビジョンを語ってくださったことは、スカラーたちにとって、学びの本質に気づく時間となったようです。









支援室見学 バリアフリー支援室



東京大学
支援室スタッ



די





大学では、障害のある学生と教職員が、障害 ゆえに修学、研究・教育、就労上の不利を被 ることのないよう、また日常感じている不便 を少しでも軽減できるよう、障害のある方そ れぞれのニーズや状況に合わせた支援を行う 部署が設置されつつあります。東京大学バリアフリー支援室に訪問し、実際のサポートを 担うスタッフさんにお会いし、学内の連絡・調整の様子や、さまざまな相談内容、具体的 な活動についてお話を伺いました。支援室の存在をスカラーたちはプリプログラムで知りましたが、実際に訪問し、話すことで、それ ぞれの気持ちに変化があったようです。

<u>ラ</u>

ランチョンセッション

大学進学を希望するスカラーたちは、受験上の配慮やセンター試験から大学受験までのスケジュール、入学後の様子など、実際に質問したいことがたくさん!お互いより良い支援の実現に向けて、必要な情報や相手への説明の仕方について、バリアフリー支援室のスタッフさんと室長の熊谷先生、東京大学教養学部・教員の細野先生を交えて、意見を交わし合いました。





ディス

ディスカッション 配慮のあり方と合理的配慮を知る・選ぶ・求める







プリプログラムで、障害がある人の権利について知り、合理的 配慮を求めることができることを知ったスカラーたち。しかし、 自分の困っていることだけを相手に伝えても、相手もどうした らよいかわからず、結局問題は解決しないこともあります。 自分の抱える困難はどのようなものでしょうか? それは、どんな 場面で起こることでしょうか?どのようにすれば、自分は活動 に参加できるのでしょうか?

プリプログラムでは、スカラーは支援を求めたい具体的な場面設定(授業中・テスト・入試)と、求めたい配慮についてをまとめた資料を作成。当日は、参加者に向けてプレゼンテーションを行い、周囲にどのように支援を求めていくかについて議論を行いました。同じ障害でもそれぞれのニーズや配慮の求め方があることを知ったスカラーたち。大学生チューター、アドバイザーからの意見が議論を更に膨らませました。

16:30

アクティビティ ツールド・DO-IT Japan!



平松竜司 東京大学



河合純一 日本スポーツ振興 センター

1:乗る 2:語る

頭を使った後は、うんと体を動かそう! 大学間の建物移動だけで、距離がこんなにあるなんで…時間の見通しや移動方法について、気付かされたスカラーたち。移動について考えたとき、どんな選択肢を持っていますか?

今回は、身近にある「自転車」にも様々な選択肢があることを、実際に見て、乗って、比べる体験をしました。セグウェイ型の乗り物や様々な電動車いすに乗っている先輩スカラーたちからの体験談、呼吸器ユーザーの飛行機遠征話などもあり、自転車だけでなく乗り物(移動)の選択肢についても考える時間となりました。また、後半は、2020年のオリンピック、パラリンピック開催に向けて、私たちがどんなことができるかを、多様な選択肢を挙げてディスカッションする時間となりました。











8 スカラープログラム | 夏季プログラム 2 日目 **9**

プログラム (3) 日目 【最先端のテクノロジーを体験・活用する】 2017.8.8 TUE

日本マイクロソフト株式会社 品川本社

3日目より、ジュニアスカラーが合流! DO-IT Japan を 2007 年から共催 している日本マイクロソフト株式会社・品川本社を訪問しました。教育や ビジネスの現場で使用されている最新のテクノロジーを知り、自らの学習 や生活に活用する方法を学びました。





テクノロジーセミナー 1 ~~~~~



パソコンを最大活用する

自分で読み書きすることに困難がある場合、教 室での勉強や入試で、他の生徒と同じ方法では 自分の持っている力を発揮しきれない可能性が あります。日常生活で私たちを助けてくれる身 近な存在となったパソコン等のテクノロジーをう まく活用するなど、多様な選択肢を持つことは、 自分が学習に参加するために大事なスキルです。 教科書をトピックとして、東大先端研が行って いるオンライン図書館「AccessReading」、株 式会社モリサワのフォント「UD デジタル教科書 体」、イースト株式会社の音声読み上げ Word アドイン「WordTalker」を体験しながら、自分 にあった見え方・活用方法について考える時間 になりました。









トークランチ 先輩たちと働き方を語る

日本マイクロソフト社で働く社員さんと実際にお会いし、自由に語るランチタイムとな りました。Skype などを利用し、遠隔で働く社員さん。多様な国籍の社員さん。働く イメージがガラっとかわっていくスカラーたち。働くことの目的や、相手に報告・連絡 相談する必要性についてもイメージが膨らんだみたいです。





マイクロソフトスペシャル講義





テクノロジーの発展はさらに進み、私たちの生活スタイルを日々変えていっ ています。榊原 彰さんのガイドで、これからやってくる未来と人々の暮らし を先取りして学びました。そんな貴重なお話をただじっと聞いているだけ では勿体無い!スカラーたちは、パソコン、タブレット、写真や録音…自 分に必要で便利なテクノロジーを選び、スペシャル講義に参加しました。



テクノロジーセミナーク ~



整理術:ノート編 効率よくとる テクノロジーを活用しても、大事な情報を正確に記録し、後で自分がわかる形に残 すことが大切です。それぞれのグループにわかれ、取り入れるべき大事な情報を見 極める、整理してまとめるテクノロジーの活用法を体験しました。









楽に入力する

機能を活用する

A) 必要な情報を正確に記録 B) 数式、グラフをパソコンで C) パソコンのアクセシビリティ D) OneNote にある機能を学習 に活用する

整理術:思考編 優先順位をつける





あなたの1日の過ごし方は、どんな活動で構成されていますか?学 校や決まっている予定に追われていると、自分がやりたいことは、 いつ、どのようにスタートをきればよいのでしょうか。いつ頃、ゴー ルにたどり着くことができるでしょうか。やるべきことを上手に把 握し、達成していく方法を知っておくことは、主体的に活動するた めの頼もしいスキルとなります。

自分のスケジュールを整理し、やりたいことを書き出していくと、 達成のためにはいくつかの具体的なステップが必要であることが見 えてきます。マインドマップという手法を使い、たくさん出てきた やりたいことを構造化して整理し、優先順位をつけ、自分の生活ス ケジュールに落とし込んでいく方法を学びました。

東京都障害者 IT 地域支援センター



身体の動きに制限がある人は、タブレット 等の身近な機器を活用するために、自分の 体にあった専用の支援機器をそれらと組み 合わせて活用する必要があります。東京都 障害者 IT 地域支援センターに訪問し、様々 なニーズに対応する多様なアームやスイッチ などの機器を実際に体験し、地域における 申請方法などを学びました。



フリータイム・外食へ行こう!

アフター5は、どう過ごす?何をするか しないのかは自分次第!休息をとったり、 これまでの活動を振り返ったり、好きなと ころに出かけたり…。プログラムは中盤。 スカラーたちは、それぞれ自分の優先順位 をたて、好きな過ごし方をしました。



10 スカラープログラム | 夏季プログラム 3 日目 スカラープログラム | 夏季プログラム 3 日目 11 プログラム (4) 日目 【多様な価値観に触れる】 2017.8.9 WED

コンカレント講義

過年度スカラーたちも加わり、賑やかになった先端研。大学の授業は、自分が学びたい授業 を自分で選択して参加することができます。更にバラエティ豊かになったセミナーは、多様 な価値観に触れたり、多様な活動を行っている人とディスカッションするチャンス!スカ ラーたちは、12個のセミナーから、自分が選んだセミナーへ参加しました。

1) 社会モデルから障害を見る







現在の「社会」は、どうして今のような形になってい るのでしょうか。改札機、自販機、机の高さ、建物 の高さ、制度…。社会環境を見つめながら、障害を 見つめ直す時間となりました。

3) ディサビリティという価値







「ディサビリティをアートとして表現するのはなぜ か?」、「ディサビリティを商品価値にしたモノ・コトが 株式会社ふくしごと あるのはなぜか?」といった観点から、日本ではあま り言及されることのない「Disability Pride」、「自己と 障害」について議論を深めました。

2) 自分の体の声を聞く







松清あゆみ

周りのいわゆる「健常者」と自分とでは、日常的な 疲れや痛み、睡眠や聞こえなど、「何かが違う」と 違和感を感じていませんか?周囲に合わせることや、 自分の体の声に耳を傾けること、自分とのつきあい 方を考える時間になりました。

4) 見えない障害とカミングアウト





外見からは障害があることが一見してわからない「見え ない障害」。どのように周囲に困難さを伝えるか?そもそ も誰に伝えるか?友だち?親?恋人?…カミングアウトを 取り巻くさまざまな視点や経験について参加者同士で共 有しました。

写真撮影



PAL セミナー 開催 ※詳細は、P34 へ

1) 議員として生きる







議員という仕事は、ちょっと特殊。たとえプライベー トでも「議員」として見られる存在。「議員という生き 方」について日々どのような政務活動を行っているの か、また議員として立候補し、どうして議員になった のかなどの話題提供をもとに、将来の働き方につい て意見を出し合いました。

3) アドボケイトになる 支援者になる



玉木幸則 社会福祉法人西宮市社会福祉協議会



障害のある誰かのために、遠慮せず必要だと求め る権利があるんだよと背中を押す。どうして障害の ある人々のアドボケイトや支援に関わるようになっ たのか。「アドボケイト」とはなにか。「アドボケイト になる」ことについて深く議論しました。

コンカレントセミナー ~~~~~







飯野由里子



日本でも同性婚の話題などで、広く知られ始めた LGBT (Lesbian、Gay、Bisexual & Transgender)。 自分 との向き合い方・付き合い方。 まわりとの向き合い方・ 付き合い方。ゆっくり話をする時間となりました。

3) 起業のはじめかた・働き方の多様性







大学に進学し、その先の出口を考えるとき、社会に 出て働くことについてもっと知りたい!起業すること だって選択肢にあるはずですが、就活以上にイメー ジがわかない。起業という道を選んだ障害がある先 輩たちの話題提供から、働き方の多様性について語 る時間となりました。

2) 治療と障害の間で







飯野由里子

「難病」。症状がころころかわるから、自分の姿を説 明しにくい。治療があえば困難はなくなるかもしれな いし、治療があわないと著しく困難が生じる。難病 は、病気?障害?感覚や気持ち、体や仕事への向き 合い方、自分や社会との付き合い方を語る時間とな りました。

4) 海外生活を語る 当たり前って何?









感じている常識とは違う場所だと、全く異なるものに なるかもしれません。他の国ではこんなことがあった よ、こんな価値観に出会ったよ、日本を飛び出した仲 間の話を聞きながら、意見交換しました。



弁護士法人つくし 総合法律事務所



2016年4月に障害者差別解消法が施行され、障害 のある人の権利保障が新たに制度化されました。一 方「訴訟する」となると気がひけるし、どんなことか よくわからない。権利や訴訟の実際について知識を 深め、議論を深めました。

4) ここがダメだよ! 学生支援





村田淳 星加良司

大学での障害ある学生の支援は、急速にその体制 整備が進んでいますが「障害学生支援」という領域 で、支援体制側では何か重要と考えられ、また利用 する学生は何を望むのか。障害学生支援の最前線 で活躍する先生からの意見、支援を受けている学生 側からのリアルな意見が飛び交う時間となりました。

12 スカラープログラム | 夏季プログラム 4 日目 スカラープログラム | 夏季プログラム 4 日目 13 プログラム (5) 日目 【社会を考える、社会へ発信する】 2017.8.10 THU

10.00

振り返りプログラム 自分の将来と必要な配慮について相手に発信すること:リーズナブルな説明

プリプログラム、夏季プログラムを体験し、スカラーはたくさんの人たちと出会い、多くの知識と経験を得ました。プログラムに参加する前の自分の気持ちや行動、視点を振り返ると、どんな変化があったでしょうか。仲間同士で語り合うと、自信と不安の両方が見えてきました。これからのチャレンジに向けて、今回体験したこと、知ったことを具体的にどう活かしていくか。先輩スカラーも交え、仲間同士で話し合う時間となりました。









13:00

一般公開シンポジウム 障害のある若者の新しい働き方 (詳細は右頁参照)

・挨拶



神崎亮平 東大先端研 所長









ボイル (日本) 厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 障害福祉課 課長補佐

- ・問題提起と話題提供
- パネルディスカッション「企業における「新しい働き方」とは?「多様性」はどこまで許容されるのか」







・夏季プログラム修了証授与式







交流会&ハイパープレゼンテーション 2017!







夏季プログラム期間で出会った仲間が 集まり自由に語る交流会!ハイパープ レゼンテーション 2017 を併せて開催 しました。ハイパープレゼンテーショ ンは、自分の好きなことや皆に伝えた いことをプレゼンする会。我こそは!と 応募し、発表権を得たアコモデーショ ン受講生とスカラーたちが、あついプ レゼンを行いました。

一般公開シンポジウム「障害のある若者の新しい働き方」



障害がある大学生が就労へと移行するときに必要な活動として、個々人の特別なニーズに応じて必要となる環境調整について、企業と個人の双方が建設的に対話し、「企業と本人がどのようにベストな合意点を見つけていけるか」を探ることが挙げられます。また、そうした建設的な対話ができる意思と態度、経験を持ち合わせていることが、今後の日本社会で障害のある大学生と企業側に望まれることとなります。

しかしながら、一般的に言って、そうした対話の準備が企業側・学生側の両者に整っているとは言いにくい状況があります。もちろん企業だけではなく、障害のある若者の側からも、既存の枠組みに無い、自分たちにとって必要な新しい働き方を提案したり、意見を述べることも必要です。しかし、そうしたことが社会的に望まれているというメッセージに触れる機会は多くはありません。私たちは自ら、新しい働き方について考え、声を上げる必要があります。

このシンポジウムでは、DO-IT Japan のパートナーとしてプログラムを運営する共催 企業 3 社とともに、過去の雇用慣習を変え新しい働き方を生み出すエンジンとなり得るような雇用のあり方について議論しました。

問題提起と話題提供

共催3社が取り組むインクルーシブな働き方について話題提供いただきました。ソフトバンク社からは、障害により長時間勤務ができない方も、週20時間未満で就業できるショートタイムワーク制度の取り組みを、日本マイクロソフト社からは、物理的な場所にとらわれない多様な働き方を許容する仕組みを、富士通社からは、障害の有無に関わらず共に働ける環境を作るワークスタイルガイドラインや、社内外での多様性理解を推進する活動についてご紹介いただきました。

「多様な人々とともに働く職場を実現する:ショートタイムワーク制度」 ソフトバンク株式会社

「全社員がいつでもどこでも活躍できる:マイクロソフトの働き方改革」 日本マイクロソフト株式会社

「多様な障害への配慮のある労働環境を生む:富士通ワークスタイルガイドライン」 富士通株式会社 「DO-IT Japan のこれまで取り組みと新しいインターンシップの必要性」 東京大学先端科学技術研究センター



パネルディスカッション

企業における「新しい働き方」とは?「多様性」はどこまで許容されるのか

- ・東京大学先端科学技術研究センター/ DO-IT Japan
- ソフトバンク株式会社
- ・日本マイクロソフト株式会社
- ·富士通株式会社

シンポジウム前半で話題提供いただいた各社と DO-IT Japan スカラーたち、フロアも交えてディスカッションを行いました。障害者雇用率を充足する人数として障害者を探すためではなく、働き方の問い直しを通じて、社会のあり方を変革していく若者を育む雇用のあり方が議論されました。働き方や働く場所の柔軟性を高めること、1人1人が職務上で必要とされている能力や価値を考え、自分なりの参加の仕方を考えることが議題となりました。



木村幸絵 ソフトバンク株式会社 CSR 部 CSR1 課



アクセノフ ユージン 日本マイクロソフト株式会社 人事本部採用グループ





大島友子 日本マイクロソフト株式会社 技術統括室



内田奈津枝 富士通株式会社 マーケティング戦略本部 ブランド・デザイン戦略統括部

14 スカラープログラム | 夏季プログラム 5 日目 **15**



自分の障害から見えてくる世界を活かし、社会を変えていく

アスカラーとして中学 1 年生のとき初めて DO-IT に 参加した。障害における困難を ICT 機器の活用で解 決すること、自分自身の障害への理解、配慮の求め 方など、多くのことを学んできた。

しかし自身の障害や障害における困難の解消につ いて学んでいくうち、自分も含めた障害者が社会に おいてどのように生きていき、役割を果たしていけば よいのだろうか?と考えるようになった。今年のプロ グラムで学んだことをいくつか書きたいと思う。

障害者が社会で生活を営む上での困難を解消する ため、一年前に「障害者差別解消法」が施行され合 理的配慮の提供が一部義務付けられた。私自身は学 校の強い抵抗により、何度も挫折し不登校になった が、中学三年に学校へ向けて行ったプレゼンでようや く ICT 機器の使用が認められた。そのときに強力な アイテムとなったのが、障害(書字)によって不利が 生まれてしまうという平林先生による的確な私自身の 読み書きの状態を把握することができるデータと、合 理的配慮の法律的根拠を盾にすることであった。両 方とも DO-IT でこれまで学んできたことを活かせた データから反論できるようにしたい。 と思う。

しかし、2日目の「配慮のあり方と合理的配慮を 知る・選ぶ・求める」で、入試における ICT 機器使 用の許可を求める疑似交渉では私にとって新たな課 題も生まれた。障害に理解のない教授役などへの交 渉に、障害があることによって不利が生まれることを 伝え、概ね交渉に成功したが、キーボードの入力速

保護者より 勇魚は書字困難に加え精神的に も多くの障害を抱えており、何 事にも消極的でした。初めて DO-IT に参加した年

私はアスペルガー症候群と書字障害があり、ジュニ 度による逆差別(私自身のキーボード入力が、同学 年が書くことができる書字速度よりも早いこと) が生 まれてしまうのではないかという反論に、正確なデー タのない私は対応することができなかった。

> 4日日のコンカレントセミナーで私が参加した「権 利と訴訟について考えてみよう」では、盲目の弁護 士である大胡田誠さんと具体的な実例について、法 律を根拠に合理的配慮の提供をどのように交渉する かについて深く考えた。

> 議論を深めていく上で気づいたことがある。物事 を進める上での目的や本質は何なのかということで ある。例えば入試での ICT 機器使用などにより有利 になると思われても物事の達成に大きな影響を及ぼ さないのであれば、合理的配慮を受ける十分な理由 となるのではないかということである。

私は障害に関係なく個人にとって最も良い方法で 目的を達成したり、本質を捉えたりすることが重要 であると気づいた。手段にとらわれて目的を達成で きなければ本末転倒だからだ。ただ、目的達成に 大きな差が生まれてしまってはいけないので、正しい解することにも繋がった。

障害を持つことで生まれる良さもあるのではない か?とも考えることができる。言い換えれば障害を 個性として捉え、強みにすることだ。コンカレントセ ミナーの「ディザビリティという価値」や「議員とし て生きる」において特に実感した。

「ディザビリティという価値」では、障害者アート という活動を通じ、健常者とは違う感性を活かした

になったり、自分で困り感や考えを積極的に伝えて いき、解決策を見い出す努力をするようになりまし た。勇魚本人が困り感を持ち、誰かに伝える事で始 は極度の緊張と疲れによりパニックを起こしました。 めて進展があるということを、DO-IT を通してしっか 今では安心して過ごせる空間を人と共有できるよう りと学んできた結果だと思います。DO-ITの先生方 た。今後ともよろしくお願いいたします。

作品で世界を新しく捉え直すことができるという田中 みゆきさんの話と、障害者のデザインを実際の社会 へ繋げていくという活動を通して、社会と障害者と一 緒に社会に変革を起こすことができるという山内泰 さんの話を聞いた。これまで障害者という側面でアー トを見たことはなく、障害を抱えながらもアートをし て頑張っているという、障害を特別扱いするメディア の風潮に嫌気がさしていたため、真剣に考えたこと はなかった。

私はその後の質疑応答を通じて、体の困難が原因 で、社会で生きづらさを拘えているのを「暗害者」と 呼んでいるだけであり、「障害者」「健常者」という 区別はあまり重要でなく、むしろ新たな視点を持っ て社会に変革をもたらすことのできる存在であるとい うこと。障害者アートは、まさに新たな視点で表現 した作品で新たな視点、新たな価値観を創造してゆ くものであると私は考えるようになった。

また、「議員として生きる」では下半身不随の議員 である山口由美さんの話を聞いた。山口さんが強調 していたのが、「当事者が声を上げること」である。 障害者という視点を持つ本人だからごそ見える世界が あるという考えに私はとても共感できた。これから の社会は少子高齢化の日本にグローバル化の波が押 し寄せ、大きく変動していくだろう。そこで重要なの が、多くの視点で物事を見ることだと思う。「ディザ ビリティ」という軸も含めた多様性、ダイバーシティ は、多くの視点で物事を見ることにつながり、新た なイノベーションを起こし、日本がこれから発展して いく上で非常に重要な起爆剤となりうるものであろ う。私も障害を持つ者として、自分の障害から見えて くる世界を活かし、社会を変えていく存在となりたい。 私はアスペルガー症候群を抱えており、選択に失 敗することで責任を負うことを過度に恐れていた。 それに加え、他人とコミュニケーションを取ること、 一緒にいることがとても嫌いだったため、自分から 他人にアクションを起こすことを避けてしまう傾向が あった。しかし、DO-IT では自分から行動すること が求められる。私は DO-IT に何度も参加することで 自分から行動を起こし、他人に自分のことを理解し てもらう重要性に気づき、自分自身のことについて理

ただ、DO-IT では選択に失敗しても過度な責任を 求めない。失敗しても立ち直ることのできる土壌があ り、選択することが保証されているからだ。今の日 本は失敗に対して過度に追求して失敗から立ち直る ことのできない社会であると能谷先生は話されてい た。自立した際には選択することが保証されている かどうか、ということを忘れないようにしたい。

には学年が上がる度に増える新たな課題や困難に対 L.T. その都度根気強く見守ってくださり感謝してお ります。今回も DO-IT を通じていろいろな方にお会 いでき、多くの事例を親子共々学ぶことができまし

私は今回夏季プログラムに参加して沢川の体験を させていただきました。

私は初めて自分の障害を他の人に説明するという ことを経験しました。自分の困難な状態を説明する スライドを作成して、相手にわかるように作っている つもりであっても、自分の見え方・読み方を説明す る難しさを感じました。しかし、今まで私がどういう 風に文字を読んでいるのは、私自身考えたことはな かったので、改めて自分の障害に向き合い、振り返 るきっかけになったと思います。夏季プログラムが終 了してからの、大学に配慮を求めるとき、以前より もわかりやすく障害について説明できるようになった のではないかと思いました。

夏季プログラム中、支援機器に出会いました。

私は今まで PC の読み上げやボイスレコーダーや OneNote 使ったことがなかったので、使ってみると 文章の理解やメモを取ることが、簡単に早く出来ま した。 しかし OneNote を使ってみて、見やすくノー トをまとめることや、タイピングの練習が必要なこ とを感じました。私は、手書きで字を書くことが遅 いです。学校で困っていたけれど PC を使うことで 出来るのなら、手書きで字を書く必要はないのでは 担がないかをこれから模索していきたいと思います。 ないかと思いました。

次に、ノイズキャンセリングヘッドフォンやフォナッ クに出会って、毎日自分が雑音に疲れていることや、 話している人の声に集中していないことなどに気が 付きました。読み書きが苦手な事は分かっていまし たが、音については、私自身疲れの原因になってい ると気が付いていなかったのでとても驚きました。1 日目、熊谷先生の講義で、選択肢が少ないことは その物に対する依存度が深いということを学びまし た。そして、選択肢が少ないということは、自分の 身を危険にさらしていると知り衝撃を受けましたが、 DO-IT に参加したことで私の選択肢は増やす必要 性が分かり実際多くの選択肢を私の中で増やすこと が出来たと思いました。だからこれから選択肢を更 に増やす努力をしていきたいです。

グアウト」を選びました。これからカミングアウトを 学校でするか悩んでいて、私にとって身近な問題だっ たので、参加を決めました。一番印象に残ったのは、 自分の障害について正直にすべて話す必要はないと いうことです。必要な支援に応じて、学校側に伝え たいことを話せばいいと教えていただきました。

見えない障害だからこそ理解してもらうことは大変 ですが、どのように伝えればわかりやすく自分にも負

保護者より 娘のLDに気づいたのは、夏季 プログラムに応募する約半年前 でした。それまでは、発達障害について知識もなく、 DO-IT Japan の活動についても全く知りませんでし た。娘は障害者向け ICT の活用が初めてで、その 知識や使い方を習得したいということもありました が、それよりも同様な障害を持った人がどんなことをしています。大学間で障害者への配慮に温度差も を思い、社会とどのように向き合っているのか、話 感じたようですが、自分が学びたい分野を優先し

きた人たちの縁は私にとって宝物です。

これから、私らしく生きていくため、楽しく勉強 するための努力をして、好きな事を突き詰めていき たいです。今回夏季プログラムに楽しく無事に参加 できたのは DO-IT スタッフの方々、アテンダントさ ん、チューターさん、17 スカラー、スカラーの先 輩方、両親、応援してくださった学校の先生方、友 人たちのお陰です。本当にありがとうございました。



一気に広がった世界をこれからももっと広げていきたい

私は今回夏季プログラムに参加して、自分が頑張 るべき時に力を発揮するために、日常生活で無理を せず生活することが大切なことを学びました。いつも、 みんなと同じようにやろうと限界まで頑張ってきまし たが、学習方法が他の人と違っても、無理せず学習

する為、支援を求めるということが分かりました。

5日間の間に先輩スカラーやスタッフの皆さん、 アテンダントさん、チューターさんなど多くの人と出 会い沢山お話しすることが出来ました。大学のこと や生活面の相談や今悩んでいる事、今まで誰にも相 談できず長い間考えていることを話すと皆さんずっと 聞いてくださり、いろいろなアドバイスをくださいま した。同じような障害や悩みを持った人が今までな かなかいなかったので仲間が増えてとても嬉しかっ たです。DO-IT に応募した時は、自分の障害につい コンカレントセミナーでは「見えない障害とカミン てもよく分かっておらず、自己理解を深めることに必 死でしたが、プリプログラムや夏季プログラムを通し て、他の障害について知り考えることが出来ました。 また、他の障害を知ることで自己理解も深まったと 思います。初めて電動車いすに乗ってみて私が考え ていたよりも早くパワーがあり驚きました。まだまだ 知らないことが沢山あります。 だからこそ DO-IT に 参加して一気に広がった世界をこれからももっと広げ ていきたいです。DO-IT に参加して出会うことので



をしてみたいということで応募しました。今回の夏季 プログラムを诵して、障害者への配慮が現在に至る まで、多くの方々が大変な努力をされた結果である こと、また、世の中を変えるためには自分自身が行 動しなければならないことを学び、娘は大きく成長 したように思います。今、娘は大学受験に向け準備

そのなかで適切な配慮を求めていこうと前向きに考 えています。また、17 スカラーをはじめとして過年 度スカラー、スタッフのみなさんなど DO-ITの関係 者との新しいつながりができ、娘にとって大きな財 産であると感じています。すべての人により良い社 会を実現するため、共に努力していければと思いま す。本当にありがとうございました。



よくよく探ってみないと出てこない自分

『DO-IT Japan』は中学3年生の2月に新聞の記 事で初めて知りました。母からの勧めもあって応募す ることを決めました。丁度、学校とタブレットPCの 持ち込みについて交渉をしていたので、より良い機材 の使い方を知りたかったということも決心を後押しし ました。今の私は当時、決心した私を褒めたいと思っ ています。それは、スカラーとして参加できて本当に 良かったと思うからです。

夏季プログラムを終えた今の私の生活には小さい けれど大きな変化が生まれました。それは『最終目 標を一番大切に考え、そのためにどう休めばいいか』 という考え方を身に着けたということです。プログラ ム中のスケジュールはなかなかハードなので自分で力 を抜くタイミングを見付けることが大切でした。しか し、私は無理しがちで元々休むことが苦手だったので 一緒に行動してくれていた皆さんをヒヤヒヤさせてい

3 日目に限界が来て、ヘルプをお願いしました。私 はマイクロソフト社から別行動で東京都障害者 IT 地 域支援センターに行くことになっていましたが、歩く のがしんどくなってきていたのを感じて普段ギブアッ プするより少し早いタイミングで車での移動をお願い していました。きっとそこで徒歩の移動を選択してい たら、移動先で集中して話を聞いたり、体験すること は出来なかったと思います。一番大切なこと、参加し たいことを決めて、そのためにどう力を抜いていくか。

保護者より で娘が皆さんと、いい笑顔で生 き生きと過ごしている姿を見て仲間がたくさんできた 事に一番の喜びを感じました。

娘は関節や神経の病気と闘う中で、理解して応援し てくれる人、酷い言葉を投げかけてくる人、様々な 人に出会ってきました。中学生の間は学校生活での 困難さを伝え配慮を求めても『前例がないので認め 今度は自ら困っている子供達に情報を届け繋げてい い致します。

それまでは全部に全力で参加して体調を崩すことの 繰り返しでしたが、この考え方を実践して身体的にも 精神的にも楽になりました。感想文を書いている今 も続けています。

また、人生で初めて雷動車椅子に乗りました。面 接のときにも電動車椅子について話していたのです が、私には電動車椅子に乗ってしまうと筋力も落ち て益々歩くのが辛くなってしまうという固定観念が強 く、積極的に使いたいと思っていなかったし怖いとさ え感じていました。けれど2日目の『ツールド・DO-IT Japan!』で初めて電動車椅子に乗って学内を回っ てみると、その利便性を、身をもって知ることが出来 たし、歩く時と車椅子に乗る時の使い分け方に驚き ました。また、4日目からは電動車椅子を貸していた だいて5日目の一般公開シンポジウムまで移動も含 めて行動していました。自走式の車いすでホテルから キャンパスまでの移動も経験しましたが、普段は学校 内など整備された短い距離しか使ったことがなかっ たので、すぐにバテてしまい、電動車椅子のありがた みを強く実感しました。

もちろん、これだけではありません。強く印象に残っ ているのはコンカレントセミナーで『自分の体の声を 聞く』の講義を受けた時のことです。熊谷先生のお 話から、欲望(心の願望)と欲求(体の願望)の違 い、その差をどう埋めているかを考えてみました。す ると、実は自分のなかで押し殺しているだけで『あん

ないと強く感じました。

今回、娘がスカラープログラムに応募したのは、自 分の為でもありますが『理解してもらえないことで 苦しむ人を減らしたい』という気持ちも強かったか らです。先輩スカラーの新聞記事で救われたように 本当に有難うございました。これからも宜しくお願

なことやりたい』『こんな風に体を動かしたい』と意 外に多くの欲望を持っている自分や、その願望の実 現が難しいと他の欲望に置き換えることで納得してい る自分、その無意識の作業が当たり前になっている 自分を見つけました。よくよく探ってみないと出てこ ない自分。私はそこに面白さを感じました。

参加したプログラムを通して、私は必ず叶えたい目 標を2つ立てました。 1つは 2020 年の東京パラリン ピックでボランティアをすること。もともと、何かし らの形で関わってみたいと考えていましたが、それは とても漠然としたもので自分から調べたりといったこ とはしていませんでした。2日目の『ツールド·DO-IT Japan! 2:語る』の時間に障害者のボランティア を募集することを初めて知り、活動内容を聞きボラン ティアへの配慮についてスカラーがアイデアを出して いく中で、必ず参加したいと思いました。2020年、 私は上手くいけば大学1年生になっています。それま でにアピールポイントを沢山作って、体を上手くコン トロールしながらボランティアとして貢献したいです。

もう一つの目標は、自動車の免許を取ることです。 私の病気の1つに手が痙攣する症状があり診断がつ いた時点で、免許を取ることは不可能だろうと諦めて いました。しかし、先輩スカラーの話を聞いていると 『私にも免許が取れるかも!』と思えるようになりまし た。自動車を運転できるようになれば、移動手段とし ての"依存先"が増えることになります。また、運転 ができるか、できないかによって私の将来の生活スタ イルは大きく異なると考えられます。どうせなら、少 しでも負担の少ない形で生きていきたいと思うので私 に免許は必須です。どうにか取れる形を模索しようと

初めて出会ったツール、意外性もあった多くの学び、 自覚していなかった自分への気付き、親元を離れた 貴重な体験の数々は私を確実に変えました。またこ の変化は大学生になり社会人になっていく私にも必ず 影響を与えるものであり、生涯を诵してかけがえのな い宝物にかるはずです。

最後に夏季プログラム参加にあたり支えてくだ さった全ての皆様、スカラープログラムに応募する にあたって協力いただいた主治医の先生方、大好き なPTの先生、そしてずっと支えてくれている家族に 心から感謝します。私は自分の中に取り込んだもの をしっかり活かしながら"やりたいこと"に向かって 歩いていきます。そして、17 スカラーとして共に5 日間を過ごした仲間。このメンバーの1人になれた ことをとても嬉しく思っています。これからもよろし

最終日の一般公開シンポジウム られません』という言葉が返ってきました。前例を き、夏季プログラムで学んだ自らのニーズを明確にし 作ってもらう為には管理職の先生方の理解が欠かせ て伝える事を実践しながら新しく見つかった夢に向 かって自信を持って前進してほしいと願っています。 人生を変える貴重な経験をさせて頂いた DO - IT の関係者全ての皆様、協力企業の皆様、応募する に際し応援して下さった病院の先生方、PTの先生、

その疑問に、答えらしきものが見つかったのは事 薄れてきました。

えることも大事なのだと分かりました。

ず…。身体機能のリハビリを1歳 で始め、中学生までは訓練中心の生活でした。しか し、努力するほど障害の壁の高さに苦悩が深まる。 不安定な歩き方と発語不能の姿を見てか、「理解で きない子」と思い込む方も少なくありません。健常 な兄と弟と比しても、理解力はあるようなのですが。 本人は周囲の無理解をどう受け止めていたことか。

を解決する「医学モデル」の二つがあると知りました。 に激怒されました(苦笑)。

自己決定できたことや、失敗の経験を含めて、それが自分らしさ

それでも、自己決定できたことや、失敗の経験を 含めて、それが自分らしさなのではないかと、頭に 浮かびました。だったら、自分らしくと、最終日の夜、 計画を練りました。期間中毎日、東大と宿泊ホテル を往復していましたが、違う道を歩いてみようと思い ました。スタッフの方を誘って、東京都庁の展望室 に車いすで昇りました。光の川がどこまでも続いて いて、今まで見た中で、最高の夜景でした。

自分のやりたい事を見つけ、方法を考え、行動を 選択して実行する。健常者には当たり前の過程です が、私には多くの障壁が立ち塞がります。でも、そ の苦労の何倍もの喜びが、現地に着いた時にはあり ました。あの夜見た夜景の輝きは、健常者中心の 社会の中で、もがき続ける私たちなのかもしれませ ん。そうありたいと願って、自分にできることを探 し続けたい。その事に気付かせてくれた DO-IT に 感謝したいと思います。



取り巻くさまざまな問題をとらえ、解決の糸口を探 る。そこから、自分を今一度見つめ、社会に問題を 提起する。テーマの壮大さ、彼らの前に立ちはだか る障壁の困難さに気付いたとき、連帯感が芽生え、 相互理解が深まった事だと思います。障害者が社会 をどう変革させるか、思考する過程で、一樹なりの 老えを得たはず、DO - ITの仲間たちと、次なる-歩を踏み出すことを切に願います。

困難な障害を前に、どうすれば自分らしく生きら れるのか。そんな私に、DO-IT は無限の可能性を 与えてくれました。4泊5日の夏季プログラムは、と ても貴重な経験となりました。さまざまな場面で考 える力と自己決定を要求され、ハンディを軽減する IT の活用を覚え、各分野のプロフェッショナルの話 を聞きました。その中でも一番の収穫は、17スカ ラーやスタッフとの間に生まれた友情です。

私の障害は脳性まひです。手、足、口が思うよう に動きません。リハビリが生活の一部で、自分の事 は、自分で出来るようにと思いますが、悔しいほど 他人任せです。特別支援学校に通う私は、支援を 受けながら「障害とは」「自分らしさとは」と、自問 自答を繰り返してきました。もしかしたら、「人間= 健常者+障害者」の図式ではなく、「人間=健常者」、 障害者は人間と言う存在ではなく、モノでしかない ではと、思うようになってました。

前のプリプログラムでした。私はこれまで、障害と の付き合い方に悩んできました。反面、どうしよう もない事を悩むなんて、ムダだなとも思っていまし た。でも、プリプログラムで顔合わせした同期のス カラーはそれぞれ個性的でした。抜群の記憶力や 探求心、知的好奇心と独特のユーモアセンス。彼ら の長所は、障害をカバーして有り余ると、だんだん 思うようになりました。同時に、デメリットと位置付 けていた障害が、実はメリットになる方法はないの かと、考えるようになりました。社会は健常者の視 点で構成されているような感じを自分は持っていま す。しかし、異なる視点、つまり障害者の視点で見 れば、違う社会像が見えてくる。その社会は、健常 者にとっても、決して居心地の悪いものではないか もしれない。16年間ずっと抱えていたモヤモヤが、

脳性まひの大先輩、熊谷先生のトークセッションれています。でも、この五日間は三食すべてで、好 も貴重な経験でした。白立とは依存先を増やす事だ と初めて知りました。今までは、自立と依存は真逆 の関係だと思っていました。自立するには、依存先 を少なくするのが不可欠だと。依存先を一つだけに する「共依存」を避け、依存先を多数確保すること でリスクを回避する。脳性まひの私には、適度に甘

さらに、障害のとらえ方には、多数派(健常者)中 心の生活環境や制度が少数派(障害者)の障壁とな る「社会モデル」と、個人の心身に働きかけ、障害

保護者より 脳性麻痺のため、話せず、動け 失望と徒労、孤立感に心を痛める日々の繰り返し。 そんな中で出会ったのが DO-IT でした。Skype に よる毎週末のミーティングを心待ちにし、寝食を忘 れて準備に熱中する。集団行動において、このよう な姿を見たのは初めてです。これまで通った特別支 援学校や訓練機関などでも、理解しあえる友人や仲 間、職員に恵まれましたが、同期のスカラーとスタッ フは、また別な存在だったようです。同期の7人は 障害に負けず、明るく前向きに生きようとする反面、 障害の形態は違えども、互いを認め合い、障害者を

夏季プログラムを終えて

大須賀 一樹

Kazuki Ohsuga

千葉県/高校2年

リハビリによる医学モデルに取り組んできた私は、ひ

たすら身体的障害を軽くする事ばかりを考えていまし

た。ゴールの見えない目標にむかい、道なき山を登

り続けているようでした。しかし、熊谷先生の話した

社会モデルの考え方に出会い、戸惑いました。医学

モデルに対し、「このままリハビリを続けても本当に健

常者に近づけるの?」と思っていただけに、「社会モ

デル」を知り、健常者だけでなく、私のような障害の

夏季プログラムでは、さまざまな自己決定をする

機会を体験できたのも、楽しい思い出です。自宅と

寄宿舎では、いつも夕飯のメニュー決定権は剥奪さ

きな物を食べることができました。自己決定権は、

楽しく、自己主張できる権利、大げさに言えば基本

的人権の尊重なのだと感じました。私の日頃の学校

と寄宿舎、自宅での日課は、教職員と保護者主導

で決まります。休日のお出かけも、親任せです。と

ころが、夏季プログラムは、行動の選択が白紙の状

態という初めての経験でした。初日、何気なく自力

移動を選択しましたが、見通しは甘く、宿泊ホテル

を出発して先端研に着くまで、さまざまな試練に見

舞われ、迷子になり、遅刻して仏のような近藤先生

ある人たちも意識改革が必要だと痛感しました。

18 スカラープログラム | 夏季プログラムを終えて



たくさんの人と話すこと

自分に学習障害があると知ったのは、プ ログラムに参加する1年前でした。障害を 知った時なぜかあまりショックはありませ んでした。たぶん長年思っていた文字が読 めない、書けないのはなんでだろうという 疑問が分かったからだと思います。だから なのか、あまり自分の障害について関心は ありませんでした。しかし、いざ進路や今 後の将来について考えてると、自分の障害 には向き合って生きていかないといけない と思いました。

プログラムに参加する時、自分なりに目 標を立てました。「たくさんの人と話すこ と」。そうすれば、いろいろな情報や、障 害に対する考え方が知れると思ったからで す。プログラムは、とても充実したもので した。普段の生活の中で同じような困難を 抱えている人は、周りに全くなかったので、 当事者同士で話したいと思っていました。 プログラムでは多くの人と話す機会があり、 自分にはなかった価値観や、考え方。どん なふうに自分との障害にむきあってきたか、 どんな困難があって、どう乗り越えてきた

保護者より DO-IT で得た冬翔の大きな財産は なんといっても、夜中まで夢中で 話してめる友人たちを得たことではないでしょうか。 スカイプで、場所を超え、障害の違いを超えて、夢 ても嬉しいことです。(まぁちょっと騒々しいですが。)

日常生活では、同じ悩みを持つ人を見つけるのは難

か、そして今どうなのか、いろんなことを、 いろんな人と話す中でとても楽しかったで す。もちろん自分と同じ障害を抱える人も いたし、違う障害であっても同じような読 み書きに困難を持つ人ともお話をしました。 話を聞いていて思ったのは、同じ障害を 持っている人でも、特性が違うということ があり、とても興味深いと思いました。そ れが、個性であり、多様性なのかなと自分 は思っています。

講義も、ただ聞くだけでなく、自分の体 験や、考えなどを話す機会が多く、自分は 毎回考えながら講義を聞いていました。学 校では、先生の話を聞いて、ノートをとるこ とだけをやっていたので、話を聞きながら、 話されている事柄について考えるという普 段やっていないことをやることはすごく疲れ ました。けど、話している内容は、高校では、 絶対にやらないことを、やっていたのですご く楽しかったです。コンカレントセミナーで は、「アドボゲイト」というものを初めて知り ました。この講義は始め、どんな内容なの かも検討が付きませんでした。講義の中で、

孤立しがちでしたが、DO-IT は障害や進学について 話せる場を提供してくれました。思い返すと、DO-IT との出会いは 2016 年の安田講堂でのシンポジウム でした。冬翔と同じ障害の子が学校に行けなかった 中になっておしゃべりしている冬翔たちをみるのはと こと、障害を理解されない苛立ち等を話してくれたこ 校生にもなると親がやれることはお金をだすことと祈 とが、私たち親にとって、冬翔を理解する助けとなり ることぐらいなのでしょう。(それがとても残念です ました。Skypeでの討論や夏季合宿を経て、冬翔にが。) DO-IT で得た友人たちとともに、豊かな人生

アドボゲイトとは、背中を押してくれる人、 同じ立場の側から、援護射撃をしてくれる 人、権利擁護をして、当事者の考えを尊重 してくれる人だと、話していました。その中 で、自分の体験を伝えることも大事だし自 分の考えも持っておく必要があると教えても らいました。育った環境が違えば、考え方 も違ってくるから。と話していました。この 講義をきいて、誰かのアドボケイトを、簡単 じゃないけど自分にもできるのではないかと 考えています。今後において、自分の体験 を伝える場面だったり、自分と同じような困 難を抱えている人が、相談してくるかもしれ ない、そうなった時、この講義で聞いた話 が生かせたらと思っています。

プログラム中は、たくさんの機械にも触 れることが出来ました。ノイズキャンセリン グだったり、フォナックだったり、車いすに も生まれて初めて乗りました。この体験で 少し街を歩くとき目線が変わりました。な んとなく歩いていた道も、よく入るお店も、 ちょっとここ車椅子だったら通りずらいか も、とか、入りずらいかもとか生活の中で 思うようになりました。自分のこの変化は、 いい傾向だと思っています。プログラムで は、講義やコミュニケーションだけではな く、生活や学習の中でテクノロジーの使い 方を学びました。新しい技術を学び、学習 する中での ICT の利用法、例えば Word の文字体や文字の色、背景の色、自分に 合ったカスタムが発見できました(自分の 場合は、背景色:薄いピンク、文字色:濃 いピンク)。生活する中で、テクノロジーを あまり使ってこなかったのですべてが新鮮 でした。プログラムでの日々は、新しいも のに触れることが多く、とても良い体験が 出来ました。伝えること、聞くこと、何か に遠慮せず頼ること、相手のことを考えな がら過ごすこと、学んだことは数多くあり ました。これからの生活でこの多くの体験 を生かしていきたいと思います。

じます。漫然と大学進学を希望していた冬翔でした が、具体的な進路を考えるようになったのも DO-IT の影響が大きいのでしょう。親では到底ここまで息 子のモチベーションを引き出すことはできません。高 しく、進学を考えるにも助言や指針もない状態で、自分の障害を人に説明する力がついてきたように感を切り開いていってほしいと願うばかりです。

「ニューカマーだね、ようこそ!」これは DO-IT の2次面接のときにかけてもらった 言葉です。病気になって1年が経ち、自分 の病気への認識が周囲とずれていると感 じ、普段の生活の場で居心地の悪さを感 じていながらも、その状況から抜け出す方 法が分からなかった私にとって、病気であ ることを明るく受け入れ、仲間だと言ってく れたことは、これまでになく嬉しかったこ とを今でも鮮明に覚えています。

夏季プログラムは『自立と依存』の講義 から始まりました。「依存の数と依存度の 深さは反比例している」この言葉との出会 いはこれまでの価値観を大きく揺さぶりま した。依存をすること自体が悪いことでは なく、依存先の数を増やすことで自分の選 択肢が増え、より多くの自己決定ができる という考えはとても理にかなっていると感 じました。また障害の社会モデルについて、 障害者と呼ばれる個人の中に障害があるの ではなく、社会とその個人の間に障害があ るというのは、大多数の人の間で成り立つ "普通の考え方"や、"一般的な方法"の 中で生きていて感じる、もどかしさそのも のではないかと思いました。曖昧な基準を 問い直し、多様性に満ちた方法を提案する ことでその障害を取り除くことができれば、 私たちは何か劣っていて弱い立場の少数派 ではなく、社会を見直す材料を持ち得た貴 重な人材として活躍できると思いました。

コンカレントセミナーでは『見えない障 害とカミングアウト』『治療と障害の間で』 『起業のはじめかた・働き方の多様性』の 3つに参加しました。すべての講義を終え て、私は自分の病気や病気との付き合い方 を積極的にカミングアウトすることに決め ました。それは、生活する上で様々な機器 に頼り、人的支援を受けることを受け入れ られない人に、頼ることが弱いことではな く、自分の能力をベストな状態で発揮する

保護者より 1年前はまだ入院中で、昨年の の準備をしていました。パソコンでの交流や個別に 11 月から高2のクラスに戻りまし

た。3年生になり、早朝補習や模試などの受験生な らではのハードスケジュールと、書字が思うように回 復しないストレスで苦しい日々を過ごしていました。 そんな頃、新聞で DO-IT の募集を見つけ、良いアド バイスを聞けるのではと参加を決めました。DO-IT 活では決して経験できないことばかりでした。しか の活動内容を学んでいくうちに、未来への希望が通 いてきたのでしょうか。勉強そっちのけでプレゼンきたようです。

指導を受ける中で、これからの自分はどうあるべき かを深く考えおおまかな方向性を決めていけるよう になったと思います。

そして夏季プログラム参加。専門的な講義や企業の 方々の前でのプレゼン、そして講評と普通の高校生 1. これが決め手となって進路を決定することがで

した。そうすることで新しい道が開け、見 える世界が変わる、自分が変われば世界が 変わるということを強く実感しました。 DO-IT で出会った先端研の先生方やスタッ フの皆さん、講義をしてくださった先生方や 企業の方々、チューターさん、アテンダント

さん、過年度スカラーの皆さん、そして 17 スカラーと一緒に過ごした熱い夏は私の宝 物です。本当にありがとうございました。



自分を表現していくこと自体に大きな意味がある

ための、自分の可能性を広げていくための 手段であることを自分の経験を以って示し たいと思ったからです。医療やテクノロジー が急速に発展する時代に、自分の周りを取 り巻く環境によって日々状況が変化し得る 病気を今の自分が抱えているということの 意味を考え直すことができたことで、私が これから中途障害者として社会に働きかけ ていく責任を感じました。私がもつ健常者 と障害者の二つの視点は、健常者と障害 者の間で互いの理解を深め、相互に歩み 寄ることのできる社会を作ることにおいて 価値があると思います。自分の病気を武器 に、他の人にはない切り口で物事を考え、 新しいことに挑戦することで、自分の病気 を肯定できる瞬間に出会えるのではないか と思いました。

夏季プログラムを終えて

DO-IT Japan プログラムを通して、私の プレゼンや考え、言葉に興味を持ってくだ さる方々と出会えたことで、自分を表現して いくこと自体に大きな意味があると感じま

いよいよ受験となりますが、結果がどうであれきっと 毎年プログラムに参加し自分の目標と自分を必要と してくれる誰かのために豊かな経験を積んでいくと 思います。またその時は、お手数をお掛けしますが

最後に、17スカラーの保護者様、夏季プログラム 中は大変お世話になりました。このプログラムが終 了してもどこかでつながっていけますように、親子 共々これからもよろしくお願い致します。

笑顔で迎えてやって下さい。

20 スカラープログラム | 夏季プログラムを終えて スカラープログラム | 夏季プログラム を終えて 21



私にとって大きな障害は、「常識」

私は DO-IT のプログラムを見つけたとき、正直応 募するつもりはありませんでした。自分の困難は障 害というより自分の努力不足や怠けから来るものだと 思っていたこと、LD の診断を受けていないことから、 自分に応募する資格はあるのかとずっと迷っていま した。最終的に、同じ障害を持つ人と話してみたい、 他の障害や配慮の仕方など、知らない事を知りたい、 何より唯一カミングアウトしている友人に背中を押さ れたことで参加することを決意しました。

スカラーに選ばれたと知った時も、本当に私でい いのかと思いました。今ではあの時勇気を出して応 募してよかったと思うし、選んでもらえたことに強く 感謝しています。

プログラム中は、普段とあまりに環境が違いすぎ て異世界に来たような気分でした。障害に関してあ けすけな話をしたり、共感を得たりできる場は初め てで、今までにない経験をたくさんした本当に濃い五 るのではなく、個々に独立しているように感じました。 日間でした。

例えばプログラム中の移動の際、一緒に行動した 17 スカラーに無理をさせてしまったことがありまし た。相手の困難さについての理解が足りていなかっ たことと、協力というものを勘違いしていたことが原 因です。誰かが無理や我慢してまで足並みを揃える 必要はないし、そんな状態では良好な協力関係は築

ミュニケーションをとることや時間管理等、不得手

とすることが多いため辛い思いをしていました。そ

んな娘を私は叱り飛ばし委縮させてしまっていまし

た。そんな中、娘が自ら DO-IT プログラムに応募

娘は高1の時に発達障害と診断

されました。睡眠障害がありコ

保護者より

えたかったのだと思います。

娘は多くは語りませんが、様々な障害を抱えつつ 困難に向き合い、一歩一歩進むスカラーの皆さんと 行動を共にし、語り合えたことで視野が広がったよ うです。自分を見つめ、何ができるか考え行動しよ うと検討しているようです。 進学 自立への道は壁 だらけですが、先生、スタッフ、先輩スカラーの皆 したいと言ってきました。娘が一番。この状況を変しても、が与えて下さった貴重な経験を力にして、仲間 と共に乗り越えていって欲しい、そして、同じように

けないと気付かされました。また、自分の困難を伝 える必要性や、相手にこちらから尋ねる余裕を持つ 重要性を知りました。このことは、「足並みそろえて」 が前提の普段の学校生活では恐らく知れなかった し、なによりこのことを意見し合えたことも貴重な経 願いします。

他にも、プログラム前の認識や考え、常識などの 価値観が変わる機会が常にありました。一番大きかっ たことは、障害の見方が変わったことです。プログ ラムに参加する前は、私は障害を名乗っていいのか、 支援を受けるに値するのか、などと考えていました。 しかし、熊谷先生の社会的モデルとしての障害の話 や、スタッフや先輩スカラーのみなさんと話をしてい る中で、今まであった健常者と障害者という区分がな くなった感覚になりました。プログラムには色々な人 が参加していて、みなさんレッテルや線引きに依存す それは、健常者と呼ばれる多数派の中で生きるがた めに、無理や我慢を強いられている人よりも、よほ ど自由であるように思いました。健常者障害者に関 係なくみんな何かしらの困難を抱えていて、そんな なかで線引きをする必要性は感じませんでした。プ ログラムは終えるととても短く感じられました。

プログラムが終わった後、自分にとって何が障害

苦しむ人たちの道標となれるよう歩んでいって欲し

最後にこのプログラムに参加する機会を与えて下 さった全ての方に感謝を申し上げます。そして引き続 きご支援いただきますよう。宜しくお願い由し上げま

になっているかを考えることが多くなりました。私に とって大きな障害は、「常識」です。 私は ADHD と 診断されたのは昨年で、それまで健常者として生き てきました。診断されたときは「やっぱりか」程度 でしたが、障害者と健常者を「別の存在のように捉 える常識」が蔓延する中で、おおっぴらにカミング アウトする勇気はありませんでした。また、カミング アウトしても私の特性は努力不足や個人の問題だと 認識されがちなのであきらめていた部分もありまし た。配慮を求めた際の周りの目が気になるというの もありました。しかし、大学に准学する先輩スカラー の方と話をしたり、起業された方の話を聞いて、将 来に関してポジティブになれたこと、自分をすこし肯 定できるようになったことであまり普通を気にしなく なりました。

プログラムを終えてから、悲観的になることが本 当に少なくなり、前を向ける時間が増えました。これ からは、自分の夢を達成するためにも、どんな支援 が必要なのか、どういった努力をすべきか、きちんと 自分と向き合って考えていこうと思います。また、多 様性の認められる社会になるために貢献できる人に なりたいです。本当に自分にとって大きな意義を持つ 五日間でした。こんな機会を与えてくださった DO-IT Japan にかかわる全ての人に感謝しています。本 当にありがとうございました。これからもよろしくお





アコモデーションコース



中学生になったらスカラープログラムに応募したい!と思っている小学生 に向けて、スカラープログラムの体験としての特別コース「アコモデーショ ンコース」を今年開催しました。

アコモデーションコースに選ばれた小学生たちは「アコモデーションコー ス受講生」と呼ばれ、今年は11名が選抜されました。夏季プログラムの 期間中に開催された特別プログラム(8月9日)に参加し、テクノロジーの 活用方法を知ったり、先輩であるスカラーたちと交流しました。

「夏季プログラム スケジュール】

アコモデーションコースは、苦手なことを頑張るのでは なく、タブレットなどを使って別の方法で学ぶことに興 味のある子どもたちを対象としたプログラムです。今年か らアコモデーションの対象学年が小学生になり、障害種 別も読み書き障害だけではなく全障害に広がっています。 午前中はテクノロジーを紙と鉛筆にして学ぶために基本 的なタブレットの使い方を学びました。そして、午後は 午前中に学んだことを生かしてさまざまなミッションをク リアしていく「先端研クエスト」に挑戦しました。

2017.8.9 WED



集合 · 受付



iPad など身近なテクノロジーを 自分の筆箱にしよう!







謎をとけ! 先端研クエスト 2017









修了証授与

「夏季プログラムを終えて]

花崎碧士 Aoshi Hanazaki





最初、教室に入った時はす ごく緊張したけど、DO-ITの 学生さんや先生の話を聞い たり、話したりしているうち に楽しくなってきました。写

真撮影の時に先輩スカラーが話しかけてくれたのが、嬉しかったです。今は メールでやり取りをしています。一般公開シンポジウムの時に、マイクロソフ ト株式会社の方が会社に行かなくてもスカイプで仕事をしてもいいと言って いたので、こんな働き方もあるんだなと少しびっくりしました。

森下礼智 Raito Morishita





ぼくは小学校2年生の後半 からタブレットを学校に持っ ていって使っています。手書 きでは苦手な事もローマ字 入力ができる様になってだい

ぶ過ごしやすくなりました。ぼくが DO-IT に参加したいと思ったのは、最先 端の情報や技術を知りたいという気持ちと、同じ様に色々苦手さがあっても 頑張っている人たちに会ってみたいと思ったからです。 普段は学校で iPad を 使っているのが僕1人なのにDO-ITではみんな、普通に使わせてもらえてそ れが当たり前の時間は何て素敵なんだろうって思いました。僕が僕らしくいら れた時間が嬉しかったです。

長谷川桜玖

Saku Hasegawa

小学 4 年4



僕が、DO-IT に行ってびっく りしたことは、見た目ではわ からない障害を持っている 人がたくさんいたことです。 僕も見た目では、何に困っ

ているかわからないので、僕だけじゃないんだと思いました。DO-IT では iPad 使って、勉強することを教えてもらいました。うれしかったです。

堀 遥歩 Ayumu Hori

小学6年生



今回 DO-IT Japan に参加し て、いろんな人とあって、そ の人たちがいろんな方法で何 か良い方法がないかと参加し ているのを見て、障害を持っ

ているぼくたちでも、普通の障害のない人たちと普通に学習、勉強ができる と実感できました。そして、今。正直なところ、その気持ちが持てない時も あります。だけど、中学校は、今、通っている盲学校じゃないところで、大 勢の人がいる場で勉強したい。そう考えて、ぼくは地域の中学校に行くこと を決めました。なので、これから、いろんなことがあって、悩むこともあると 思うけど、頑張っていきたいと思います。

22 スカラープログラム | 夏季プログラムを終えて アコモデーションプログラム 23 Scholar Program

夏後の活動

全国各地にいるスカラーたちは、夏季プログラムで東大先端研に集まった後、それぞれの場所に戻り、自分たちのチャレンジを続けています。テクノロジーを活用し、進捗を報告しあったり、集まる会を企画したりしました。また、海外研修などのイベントプログラムの様子など、夏後の活動の様子をお届けします。

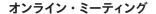
オンライン MTG、 ギャザリング

DO-IT の「I」は「Internetworking」の「I」です。スカラーは全国から参加しているため、お互いに遠く離れています。日頃、主に彼らはオンライン上で交流しています。悩みや困りごとの相談、近況報告、情報提供、ディスカッションなど、さまざまな目的でインターネットを活用しています。また、興味のあるイベントに共に参加したり、ギャザリングを開催し、直接会って自由に話す機会も開催しています。

[オンラインでの活動]

メーリングリスト

メーリングリストは、DO-IT Japan に関わる参加者全員が登録しているものや、スカラーだけが参加するもの、保護者だけが参加するものなど、いくつかのメーリングリストが作られ、コミュニケーションが行われています。DO-IT Japan のスタッフや「アドバイザー」と呼ばれる障害のある人々の支援の専門家も参加しており、時に応じてアドバイスや相談を行っています。



オンライン・ミーティングは、月に1度を目安に Skype を 通じて行われています。その時々でスタッフやスカラーから 提案されたトピックを中心にミーティングが行われています。 企画のとりまとめや日程調整、司会やファシリテーションは、 担当者が行います。

多様な障害のある学生が集まるミーティングのため、文字が 見えなかったり、音声が聞こえなかったり、タイピングが打 つのが難しかったり、誰が話しているかわからなかったりす るなど、それぞれ参加する上で困難が発生します。共に円 滑にディスカッションするには、どんな準備や配慮が必要で しょうか。自分自身や参加する他のスカラーたちのことを考 える機会は、多様性(ダイバーシティ)を身近に考える良い 機会ともなっています。







「オフラインでの活動】

実際に顔を合わせて行う茶話会 (ギャザリング) を、季節 に一度程度開催しています。主に東大先端研を会場としていますが、遠方であったり、入院や移動の困難のために参加 が難しい人のためには、Skype を使って遠隔からその場に参加できる工夫を行っています。また、テクノロジーカンファレンスなど、外部で開催されているイベントにも、関心のあるスカラー同士が集まり、共に参加したりもしています。

海外研修

DO-IT Japan では、文化やライフスタイルを含めた海外の多様な価値観や社会制度などを実際に体感する経験を得るため、海外研修プログラムを行っています。今回は、マレーシア・クアラルンプールを訪問し、街のアクセシビリティ調査や、現地の学校・大学、障害のある学生・人の支援を行っている団体と意見交換を行いました。マラヤ大学では DO-IT Malaysia を行っている Loh Sau Cheong 教授と、スカラーたちに会うことができました。

[研修生]

栗井優衣 (10 スカラー・大学生) 森雄大 (10 スカラー・大学生)

[スケジュール]

2017.3.12 SUN - 17 FRI

● 12 日 羽田空港集合・搭乗

● 13 日 マレーシア着、自由チャレンジ 1 (粟井企画)



● 14 日 クアラルンプール市街アクセシビリティ・ 調査、自由チャレンジ 2 (森企画)



● 15 日 学校訪問 (Universiti Malaya、クアラル ・ ンプール日本人学校、Mind Space)



16日 アドボケイト団体訪問 (United Voice)、ディスカッション・取材



● 17日 日本着

[海外研修を終えて]

森 雄大

Yudai Mori

10 スカラー



今回、学校や団体に訪問し、現地で暮らすファミリーや学生との出会い、たくさんいろんな話をすることができた。マレーシアは都市開発が進んでおり、公共交通機関にであるバスには車椅子マークがついており、スロープがついていた。しかし、バスの場合、入り口にあるボタンを押すことで運転手がスロープを出すという仕組みであった。しかしそのスイッチがバスの外側にしかなかったことに驚いた。つまり車椅子で降りる際は、誰かが先に降りてボタンを押さなければならないということである。この設備を見て、実際にバスにスロープやそれを利用するスイッチを設置する際に、ユーザーの視点で考えられていないということは、そのようなバリアフリーのための設備を考える際に、当事者が話し合いに参加できていない現状があるのではと感じた。また、多様な宗教、人種が一緒に暮らすマレーシアだが、まだまだ偏見や差別意識といった人々の考えの点における環境整備はこれからであることを知った。経済が発展しつつあるマレーシアで、障害者の自立の問題も焦点を当てていくにはどうしたらいいのか、現段階では答えはわからないが、考えさせられるきっかけとなった。

現地の日本人学校に通う読みに苦手意識がある子供と話をした。その子は勉強でタブレットを使うことに抵抗があった。おそらく、他の子と違う方法をとることが嫌だったのだと思う。私が小学生のころ、当時は電子教科書もなく、音読の宿題がすごく大変でいつもさぼっていたという話をしたり、実際にどのようにiPad の読み上げ機能を活用しているか見せたところ、以前よりタブレットに対して前向きになってくれた。自分の経験を話すことで、相手が前向きになってくれるという体験は新鮮で、非常に良い出会いをしたと感じた。そして自分にも小さなことではあるが、現時点でも自分と同じような困り感を感じている人のためにできることがあると実感できた。



24 夏後の活動 | オンライン MTG、ギャザリング

Scholar **Program**

スカラーのチャレンジ

自分だけの力で活動に参加することが苦手でも、代替手段を使ったり参加方法を相談すれば皆 と同じく参加したり学んでいくことができると DO-IT はスカラーたちに伝えています。夏季プ ログラム参加後、スカラーたちは、それぞれのフィールドで様々なチャレンジを続けています。 スカラーたちがどのように今の自分の学ぶ・働く環境をつくっているのかを紹介します。

ジュニアスカラー ※ 2011 年度から 2014 年度にて開催された小学生向けプログラムで選抜されたスカラーです。

〈13 ジュニアスカラー〉 甲斐潤樹 Mitsuki Kai

中学生



テクノロジーを使って学んでいる様子を インタビューしました

勉強についての困り感は、いつ頃から感じていましたか?

小学2年生の時。漢字を何回書いても覚えることができなかった。

学校ではどのように勉強していますか?

小学3年生でDO-ITに参加した後、学校に説明して、ノイズキャンセ リング、プリントの拡大、ノートを取らず話に集中できるようにしてもらっ た。4 年生の時に iPad を、6 年生からパソコンを使い始めた。中学生 になってからはパソコン、拡大コピー、ノイズキャンセリング、教科書の 電子データ(AccessReading) などを使わせてもらっている。手書き が難しい時はパソコン、手書きの方が楽だったら手書き、聞くことに集

中した方が頭に入る時は聞 く。自分がその時にやりやす い方法で学んでいる。学校 が疲れた時は、リフレッシュ 休暇をとるようにしている。 1日休むと復活できる。



困ったことや課題を感じる時はどんなときですか?

学校で使うノートやワークが小さいので使いにくい。テストを拡大コ ピーで受けてるけど漢字で書けなくてバツだったり文章で答えるのが うまく書けなかったりするけど、先生からはこれだけできてれば大丈 夫と言われる。このままでいいかちょっと悩んでいる。

将来はどんなイメージを持っていますか?

生き物の観察世話、研究会の活動などをしている。生き物と自然保護 に関わる仕事をしたい。生き物の生態だけでなくその土地の環境や歴 史、生活様式とかからも自然を守る仕組みを考えたい。

後輩へメッセージをどうぞ!

僕はみんなと同じことができない自分はダメ人間と思っていました。でも 学び方は人それぞれです。やり方は違っても自分に合った方法でみんな と勉強もできるし学びたいことを学ぶこともできます。僕は中学になって 学ぶことが楽しいです。だから学ぶことを諦めないで自分のやり方を見 つけてください。

〈14 ジュニアスカラー〉

藤原誉盛 Motomitsu Fujiwara 中学生



普段どのような学び方をしているかインタビューしました

勉強についての困り感は、いつ頃から感じていましたか?

小学1年生。読む順序がわからなかった。母が気づいて相談に行った。

学校ではどのように勉強していますか?

授業中は、iPad とパソコンを使ってノートテイク。国語の古文などの 授業では、先生が黒板に書いた文を読むことが難しいため、教科書の 電子データをスクリーンショットでとって、ノートに貼り付けてる。 テ ストは、中学入学から問題用紙と回答用紙の拡大。中学1年の夏休み あけから代読をはじめた。代読だと時間が足りなくなるので中学1年 の3学期からは1.3倍の時間延長を受けている。今は新しいチャレン ジとして、パソコンの音声読み上げを使ってテストを受け始めた。

家ではどのように勉強していますか?

書くことが多い宿題は、手書きではなくパソコンを使う。ワープロに答 えを打ち込み、印刷して提出。ワークブックもパソコンでやろうと試行 錯誤中。ただワークブックは図表が多く、スキャンして文字認識をかけ てもうまく読み上げない。ワークブックはスキャンするために切らなく てはいけないので同じものを2冊購入したこともある。

学びやすさは変わりましたか?

うしろめたさがなくなった。例えば、先生が国語の教科書を読みなさい と言われた時、漢字にフリガナがないと、つまってしまう。そうすると「早 く読んでよ。時間ないのに」って、先生がいらいらしてしまうんじゃな いかと感じる。今は、漢字の読み方を迷う時間が減るので安心するかな。

代誌とパソコンの音声読み上げの違いって何?

代読や音声読み上げの使用に よって、わからなくてとばして いた問題がわかるようになっ た。ただ、代読は依頼しにくい。 一回読んでもらってわからな いところがあった時はもう一



度読んでほしいけれど、いいにくい。もう一度お願いしますと言うことには、 マイナスのイメージを感じるし怖い。音声読み上げだとそれがないかな。

高校生スカラー

〈15 スカラー〉 渋谷友哉

Tomoya Shibuya



高校での過ごし方についてインタビューしました

高校では、どんな学び方をしていますか?

介助員の先生がついて、学内の学習と生活のサポートをしてくれています。 授業中は、先生が横についてくれています。教科書をめくってもらったり、 ノートを取るため代筆を依頼しています。また、リクライニングができるベッ ドを学校が手配してくれており、緊張が強いときや体を休めながら勉強し たいとき、使用しています。また、テストも授業中と同じく代筆で受けて います。テストをするときや休憩をとるときに使える部屋を1つ用意してく れています。教室にあるのと同じベッドを置いてくれています。

高校生になって、どう感じていますか?

次の世代のことをいつも考えている。徳島県内の障害のある子が高校進 学して、代筆受験ができるという前例を作れたことはとても嬉しく思って います。そんな乗り越えるべき社会の壁を越えたり、学校のテストで点が とれるのも嬉しいけど、高校生でよかったと思うのは、社会にでたとき、 差別的取扱がきっとあると思う。それを解決するために、DO-ITで、社 会でいきていくための合理的配慮を学べたことはいいなと思っています。 時間はかかるときもあるけれど、学校でもそうやって話をしあっていけて

ただ今は、自分の体の特徴を理解してもらえないときが困っている。筋 緊張があって、大きな音がすると反射的に固まってしまうし、疲労が人が 思っている以上にたまりやすい。これから必要な相手に伝えていこうと思っ ています。



どんな夢をもっていますか?

小さいときは、海が近かったから、海洋生物学者になりたかったけど、今の 夢は、地震を研究して、予測できるような開発をすること。研究して、法則 をみつけたい。地震の被害を無くすためにできることや、災害を減らしたい。

後輩へメッセージをどうぞ!

無理をすることなく、苦しい時は苦しいと言って、無理をして欲しくない。 なぜなら、話すことで共感できたりすることを、DO-IT に行って話し合って、 なるほどな、と思ったから。自分自身が、まわりの支援に支えられている ので、社会へ還元していきたいと思います。

〈16 スカラー〉

吉田伊織 Iori Yoshida



高校選びと入試、学習環境についてインタビューしました

高校はどうやって選んだのですか?

府立の定時制の高校に通ってます。中学は病弱の特別支援学校に在籍し ていて、看護師さんがいっぱいいた。人の役にたてる仕事につきたいと 思って看護師になりたいと思いました。看護学校へ配慮申請のため説明 に行ったけど、配慮を得ることはできず…再度チャレンジするより、ま ず高卒資格をとってもよいかなと思いました。ICT が進んでいる学校で、 昼から夜から OK、という学校を探し、今の学校に行こうと思いました。

入試は、どんな配慮を申請しましたか?

受験内容は、作文と面接。書字が大変なため、願書と共に、診断書と 配慮の希望を書いた書類(パソコンでのワープロ利用)を学校へ提出 しました。試験は、別室利用で、学校が手配したパソコンを利用。パ ソコンにはロギングするアプリ「Lime」が入ってました。パソコンで 作文して、印刷して提出。監督の先生が1人いました。

高校では、どんな学び方をしていますか?

学校の特徴として、iPad が生徒1人 に1台支給されています。iPadは、 教科書の電子データを入れて使用。 ノートはパソコンのワープロ入力で とってます。学校と話し合い、学校 のパソコンを借りてます。あと支援



員が一人付いてくれて、代筆が必要なときに手伝ってくれています。学校で とったノートを家でも開いて勉強したい、と学校に相談したところ、USB を抜き差しをするとウィルス問題があると困るので、インターネットを利用 してクラウド上での保存の許可をもらいました。テストは入試と同じく、別 室利用で、パソコン (Word) でワープロ入力して解答しています。

高校生になって、どう感じていますか?

学校行って勉強して、結果はやった分だけかえってくる。楽しいと思いまし た。先生もわからないことを相談すると相談に応じてくれる。部活動に参 加したり、共通の友達に会えたりしている。勉強することが嫌じゃなくて、 今は勉強することが楽しい。一方で、自分から説明する必要性もわかるけ ど「なんか大丈夫か?」って声かけてほしいなと思うときもある。

後輩へメッセージをどうぞ!

看護学校は諦めてはいない。次の進学先は看護学校。自分はつらい過 去があったし、周囲からはやればできると言われて、結果不登校にもなっ た。でも、ちょっとずつ自分で勉強していたし、興味があること、没頭で きることは没頭していた。今はだめでも、未来はだめじゃない。高校に入っ て、そう思った。好きなことはやめない。没頭できることは没頭してよい。 没頭したことを使って、いつか人の役にたてたらいいと思う。

〈10 スカラー〉

遠山弘晃

Hiroaki Tohyama

大学入試や大学での様子についてインタビューしました

大学を意識しはじめたのはいつですか?

大学を意識しはじめたのは中学生のときでした。きっかけは、大学での人支援技術の開発に関するニュースをテレビで見たことでした。自分のイメージしているものを実現するためには、それを作り出すための知識と技術を身につける必要があると思いました。それを学べるのが大学だと思いました。

大学選びの決め手は?

自分の夢であり目標である人支援技術の最先端の研究開発を行っている研究室があったことです。自分もそこで人支援技術について学び、研究開発を行いたいと思ったからです。

入試は、どんな配慮を申請しましたか?

自分は、怪我で運動障害を持っています。 長時間、自分の手でペンを使って文字を書くことが困難です。 高校で受けていた配慮と同じ、別室での時間延長と代筆受験を申請し、受験しました。 代筆とは、代筆者と、口頭により筆記内容をやり取りしながら解答をすすめていく方法です。 代筆をするとわかるのですが、数学や物理といった理系科目では、英語や国語以上に時間がかかるんです。 たとえ、解答試験の解答形式がマークシートであっても、解答を考える過程では、筆算過程を書き留める作業や、図形を描画する作業にも代筆が必要なためです。

自分の場合、調べると、代筆のみに使用する時間だけで、通常より、数学 1/Aで 1.8 倍、数学 2/Bで 1.7 倍、物理で 2 倍、化学で 2.5 倍の時間がかかっていることがわかりました。また他に、問題用紙のページめくりの代行や、体調維持のための酸素吸入等の追加時間が必要となり、試験を実施するには調べた時間よりもっと時間がかかります。なので、大学入試センターに配慮の申請として、上記の結果をまとめた書類を作成して提出しました。結果、数学に加えて、物理、化学の各教科において、1.5 倍の時間延長が認められました。大学入試センター試験後の 2 次試験でも、大学入試センター試験に準じた配慮が認められました。

どんな勉強を専攻していますか?

大学は、国立大学の理工学群に行きました。今は同じ大学の大学院に 進学し、人の生活を支える工学システムを作るために必要な工学分野 全般を学んでいます。また、人支援技術の開発を目指し、人・機械・ 情報系を融合複合した新学術領域であるサイバニクスを学んでいます。 将来は、人の生活を支える技術を研究開発し、実際に社会実装して行 きたいと考えています。また私自身、そういった人支援技術を使って、 自分の人生を最大限に楽しんで行きたいと思っています。

実験なども多いと思いますが、どんな風にしているかを教えてください。

専門実験等では、実験ペアの人と相談をし、実験装置や器具を使った細かい作業はペアの人と一緒に、もしくは、代わりに行ってもらい、パソコンを使った作業やデータの記録などは自分が行うといったように、役割分担をすることで参加しています。



大学側に相談していることや配慮を求めていることはありますか?

私は上肢に麻痺があり、筆記など細かい作業に困難があるため、支援者の方に代わりにノートをとっていただくノートテイク支援を受けています。 試験の受け方は、入試と同じ形を取っています。別室にて、1.5 倍の時間延長と同じ専門のピアチューター(支援者)による代筆受験(担当は代筆には記号や数式など専門の知識が必要となるため、同じ専門のピアチューター登録者の方、もしくは、院生の方に支援の募集をかけて、試験監督者立会いのもと代筆支援をお願いしています)です。また、長時間の座位にも困難があるため、座位保持のある椅子を使用させていただいています。

大学生活は、どうですか?

学んでいることが自分の夢を実現することに直結していると感じること、また、実際に夢の実現にとりかかれていることにやりがいと喜びを感じています。また、大学生活や一人暮らしを通して、自分に必要な支援のマネジメント(ヘルパーさんによる自立支援や生活設備のパリアフリー化、補助具の利用等など)や生活の工夫ができるようになったことがよかったと思っています。一方で、大学での授業や実験、一人暮らしなど、初めてのことには壁があることが多いです。ですが、先生方と一緒に解決策を検討し、ときには友人の助けを得ることで、そういった壁は乗り越えることができています。あと、大学以外では、友達と車で遠出したり、サークル活動で海へ行きダイビングをしたりしています。





後輩へメッセージをどうぞ!

もし、興味のあること、やりたいことがあれば、ぜひチャレンジしてみてください。ときには壁にぶつかることもあると思います。そんな時には、ぜひ自分にあった自由な解決作を考えてみてください。家族をはじめとして、きっとそのチャレンジを助けてくれる人も現れると思います。既存の枠にとらわれない、自分の人生を最大限に楽しめる、そんなチャレンジをたくさんして行けたらいいですね!

〈13 スカラー〉

愼 允翼

Yunik Shin

大学入試や大学での様子についてインタビューしました

大学を意識しはじめたのはいつですか?

小学 4 年生から行きたいと思う国立大学があった。ある漫画との出会いかな。

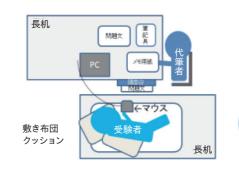
入試は、どんな配慮を申請しましたか?

高校にはいっても志望校はかわらず。文学部へ行って(歴史、哲学) を学びたいと思っていた。

8月に、受験のための配慮申請の準備を開始して、9月にセンター試験へ配慮申請書を提出した(学校の先生に配慮申請説明書の依頼、診断書の準備、配慮の希望をまとめた書類の作成)。希望する配慮内容は、代筆の許可、時間延長(マーク式は1.3倍、記述及び理数系科目は1.5倍の延長)、介助者の入室許可、メモ用紙の利用許可、問題用紙2部用意(全教科:自分用、介助者用)、必要な持ち物の持ち込み(パソコンとマウス、譜面台、布団やクッション、介助に必要なものなど)。センターの配慮内容の返事がきて、申請が通った。代筆者の用意は、話あいの結果、普段から行っており慣れている人、ということで、高校の先生に協力してもらうことになった。

二次試験は、入試課担当に書類送ったり電話をして話をしていた。1月 センター終わった後、配慮の結果を受取った。センター試験と違う箇 所は、時間延長が全教科 1.5 倍、代筆者は、大学の教員で、基本教科 ができるものが代筆する。代筆者の指定は自分から依頼しました。数学、 物理、科学の理数系科目は、解答を代筆者に口答で伝える際、専門用 語を使用するため、解答を用紙に記入する時間を円滑で素早く遂行す ることを目的として、該当教科を学んだ経験のある人の手配を希望し ます、と伝えたんです。

当日試験を受けたけど、短い。時間足りないと思った。ページめくったり戻ったりを指示していると、集中がきれる。線も引くのも指示するのが大変。代筆者が書きながら考えることで時間をつくってたけど、精一杯だったな。



※パソコンは、代筆者に漢字や単語がうまく伝わらないときに、マウスで字を書いて説明するために使用した。

※自分が受験した際の会場の設営図。受験する学校に受験するための 様子を伝えるため、配慮の希望書類と共に提出した。



2回受験したんですよね?

そう。次の年にもう一度チャレンジした。志望大学もかわらない。センター試験の配慮申請、大学の配慮申請は、昨年度と同じ手続きをして、同じ配慮の許可がおりた。

代筆者も昨年度の先生たちが OK だった。あと、合格チャンスをふやすため、今年度その大学で導入された推薦入試をうけることにした。推薦は面接に加え、小論文とセンター試験を受けて、合格した。

どんな勉強を専攻していますか?

国立大学の文学部で哲学を学んでいます。

学業に参加する上で、大学側に相談していることや配慮を求めていることはありますか?

大学の支援室とよく話をしている。休憩などで横になる必要があるので、1つ部屋を使わせてもらっている。ノートテイカーの利用と、代筆などのサポート、介助者の利用。本などは、図書館のサービスで電子化したり、PDFで借りたりしています。レポートが多いけど、試験がある場合は、代筆や時間延長。もしくは、面接とかレポートでの代替試験もある。相談して決まっていく。

大学生活は、どうですか?

やっと楽しい生活がはじまった感じ。例えば、当たり前なんだけど、友達がめっちゃできる。ゼミとかが、好きな活動とか、好きな人が増える。 望めばなんでも手に入ることかな。



大学以外はどんな過ごし方をしているの?

ゼミ。大学のイベントでも活動しています。皆と一緒に企画やったり。 事務的なことも多いけど。旅行にも行くし、友達と晩御飯いったりするし。 今は、次に大学のキャンパスがかわるから、1人暮らしの準備したりし てます。恋愛も大事だね。

後輩へメッセージをどうぞ!

おれの事例見るとさ、尊敬するじゃん(笑)。一歩進んでいる人をみたら、 いいなと思ったりなりたいと思う。でも、なりたいと思ってもなれない。 一人ひとり違うから。

なんとかなるよっという例にはなるけど、自分の生き方はあるからさ。 自分の生き方を探してほしい。自分のことや人生を楽しくできるような きっかけにしてほしいな。

大学生スカラー

〈15 スカラー〉

小暮理佳



大学生活と好きなことについてインタビューしました

大学を選んだ決め手は?

家から近く学びたい分野があったから。高校時代、下校時のみ介護タ クシーを使っていたのですが、1週間前に下校時間を伝える必要があ りました。部活を途中で抜けることもあり嫌だったので、家から徒歩 で通えるところを考えました。結果、疲れてもすぐに家に帰って休息 できるので、夜まで部活動や委員会活動ができ、活動の幅がグンと広 がりました。

どんな勉強を専攻していますか?

所属は私立大学の文学部。ゼミでは「特別支援教育支援員の現状と問 題点」というテーマで共同研究をしています。教員免許取得を目指し て教職課程を履修しています。

大学側に相談していることや配慮を求めていることはありますか?

入学式の前日に話をしました。車イスでアクセス可能な教室の設定、 可動式の机の配置、設備の改修等をしてもらっています。また、校内 で介助員の利用もしています。

ふだんはどんな過ごし方をしていますか?

友達と遊びに行ったり、ご飯 食べたり買い物に行ったりし ます。趣味でピアスやブロー チなどのアクセサリーを作っ て、WFR で販売しています! (https://minne.com/ricca-chan)





日の出ピアス

あの地図のピンピアス

将来はどんなイメージをもっていますか?

小さい頃から雑貨が好きです!デザイン系の働きたい会社があるので、 そこを目指そうと思っています。

後輩へメッセージをどうぞ!

大学は楽しいです!世界が広 がります!勉強はもちろん、 友達と遊んだり、いろいろな 先生と出会ったり…大変なこ ともあるけど、毎日本当に楽 しいです!何事も諦めず、困っ たらうまく人に頼って、自分 のやりたいことを実現させて いってください!



〈08スカラー〉

関根彩香



大学・大学院の生活や就活について インタビューしました

大学選びの決め手は?

高1からいろんな大学にオープンキャンパスに行きました。 最終的な 決め手は、福祉と心理が両方学べるところ。また、大学から留学がで きることでした。希望する私立大学に決めました。

大学入試は、どんな配慮を申請しましたか?

センター試験は、車入構の許可、介助者の付き添い、時間延長(1.3倍)、 別室、ページめくり・消しゴム使用時の介助、装具や持参テーブルの使 用、英語(ヒアリング)のスピーカー使用、休憩の時に横になれるベッ ドの使用、チェック回答。AO 入試は、提出書類の PC 作成許可。

大学側に相談していることや配慮を求めていることはありますか?

試験時の別室、時間延長。また、授業を取る先生に、車いすの学生が履 修しているということを事務経中で伝えてもらってました。その他は、 個別にその場で提出するプリントの猶予時間をもらったり、パソコンで の作成に変更してもらったり。

大学院に進学したんですよね?

大学時代、就活で説明会を聞 きに行って興味があるところ にエントリーシート出した が、お祈りメールが続いた。 その当時は働くイメージがな く、出来ないことは言えたけ ど、これはできる、というの がなかった気がします。大学 院進学を考え始めたのは、大 学4年の後半。興味のある私



立大学の受験を決意し、合格。今は障害者福祉の研究をしています。1 年の時にほぼ単位を取り終え、2年間休学しました。復学後は修論指導 のみで通学しています。休学理由は、一人暮らしを始める準備、インター ンシップへの参加、また、海外に行きたかったから!

後輩へメッセージをどうぞ!

大学も企業も色々見て、たくさんの人に会って、話を聞くといいと思う。 外側のいいところだけじゃなく、悪い部分も含めて知ることが大事。大 学はオープンキャンパスだけでなく平日に行くと学生や学校の雰囲気が より感じられるからおススメ。この先生・先輩いいなとか、自分もこん な風になりたいなって、惹かれる人に出会えるときっと大学生活や仕事 がより楽しくなると思う。

大学生スカラー

〈13 スカラー〉

中尾優理

Yuuri Nakao



大学探し・決定までの経緯をインタビューしました

どこの国の大学ですか?

イギリスの公立大学・教育心理学。来年の10月からです。

大学進学までの話を聞かせてください。

小さい頃から両親の大学エピソードを聞いて、色んな人に会える、行き たいと思っていました。自分の夢ははっきりしていて、当事者研究。日 本の教育システムをかえたい。英語スキルはほぼない状態だったけど、 エージェントを通して海外の大学を調べ始めました。エージェントか ら、イギリスのファウンデーションコースについて紹介してくれて、す ごく興味を持ちました。「英語、留学できる、イギリスほど物価高くない」 で検索。結果、カナダと、アイルランドに語学留学しました。

アイルランドにいるときに、スコアをとってイギリスに行こう!と決め ました。IELTS UKVI を受け、イギリスへ入国。ファウンデーションコー スへ参加。その後、大学へアプライして進学先が決定しました。

大学側へ配慮の相談・申請はされたのですか?

授業のペースが早いと感じた。聴覚過敏と疲れやすさがあるので、説 明をして、イヤフォン・耳栓の着用、机の位置の相談や別室の利用、 相談できる人の紹介をしてもらった。

大学進学まで時間がありますね。 今は何をしているんですか?

日本帰国後は、小学生に 英語を教えています。あ と学費のために、他のア ルバイトもしようと進め ています。



留学してみて、どうでしたか?

気づけてよかったことは、友情。国。性別。文化、宗教。これらは「壁」 と思っていた。体験をもって、壁じゃないとわかったこと。

将来はどんなイメージをもっていますか?

当事者研究に携わりたい。携わって、日本の教育システムをかえたい。

後輩へメッセージをどうぞ!

海外に留学したことが、私を語る上で他の人と違うところ。違いを怖 がらないでほしい。DO-IT Japan で人の多様性を、海外では人類の多様 性を感じた。多様性を多様性としてみることで豊かになっている。興 味をもったり学んだり、いってみたいと思うことができる。宗教など 関係なく、意見の合う・合わないで友人になったりする。怖がらないで。 伝えたい、やりたいと思ったことを、諦めないでほしい。

〈16 スカラー〉

出口 澪

Mio Deguchi



他団体の海外派遣事業への参加について インタビューしました

TOMODACHI 障がい 当事者リーダー育成 米国研修プログラム に、スカラーの出口 さんが研修生として選 ばれました。



研修プログラムに参加し、どんなことをしていますか?

私は昨年度の新規スカラーとして夏季プログラムに参加し、自分のアイデ ンティティの一部である"障害"をより意識するようになったことを転機 に、障害者である私が社会にどう貢献できるのか疑問を抱くようになりま した。アドボカシーが私自身や日本・アメリカの障害者コミュニティにも たらすもの、リーダーシップに必要なスキルを学ぼうと思い、トモダチプ ログラムに参加しました。このプログラムでは、個人の興味・関心に応じ た障害に関する機関でのインターンシップがあります。 Carroll Center for the Blind という NPO 法人で、私は視覚障害者の生活の中でテクノロジー が果たす重要な役割を学ぶと同時に、白杖をもつことや歩行訓練を受ける ことが視覚障害者にとっていかに大切か身をもって知ることできています。

私はボストンの生活を通し て、アメリカはダイバーシ ティの国だと実感していま す。様々な人種、宗教、マ イノリティの人たちがとも に生活し、尊重し合い、お 互いから学ぼうとする姿勢 があります。マイノリティへ の偏見や生きづらさがある のも事実ですが、自らの権 利や意志を主張する彼らの 声が、社会に与える影響の 大きさに気づかされます。



[TOMODACHI 障がい当事者リーダー育成米国研修プログラム]

障がいのある日本の若者達が次世代を担うリーダーとして活躍する為に、 リーダーシップおよびアドボカシー能力の向上を目的に、米国マサチュー セッツ州ボストンにて行われる5ヶ月間にわたる集中研修プログラムで す。このプログラムは、東京の在日米国大使館と公益財団法人米日カウン シルが主導する TOMODACHI イニシアチブが、ノースロップ・グラマン の支援により実現しました。マサチューセッツ州立大学ボストン校地域イ ンクルージョン研究所 (ICI) が運営・実施をしています。

(http://www.communityinclusion.org/tomodachi-jp/)

〈10 スカラー〉

山﨑康彬 Yasuaki Yamasak



就職活動についてインタビューしました

大学では、どんなことを勉強したか教えてください。

国立大学の理学部へ行きました。先生になりたかったので、教育実習 にもいきました。

大学卒業後、大学院に進学したのはどうしてですか?

勉強したかった。学部だと無理をしてたと思う。忙しかった。ゆっくり 学ぶ時間がほしいなと思った。その後、同じ大学の大学院に進路を決定。 受験しました。試験内容は、筆記試験(時間延長2倍を申請しました)、 面接でした。

大学院ライフを振り返るとどうでしたか?

M1 の終わり、長期履修制度申請しました。他の人と同じスピードは難 しい。就活も時間かかると思って使いました。結果振り返ると、就活 に時間かけることができてよかったです。あと、大学院入ってすぐ留 学したんです(6ヶ月)。色んな国の人と生活ができました。

就職を意識しはじめたのはいつですか?

大学職員になりたいと思って情報集めを始めました。就活情報サイトに登 録、公立大学に職員公募がでているのを見つけて、障害者雇用枠が非正 規雇用しかなかったので、正規雇用のある一般枠で応募しました。

これからどんな仕事をされるのですか?

来年の4月から公立大学の職員として働きます。これからは、大学の スタッフの側面から、DO-ITで学んだことや経験を活かして、高等教育、 そして社会のダイバーシティ (障害も含めた多様性) を推進していき たいと思います。

後輩へのメッセージをどうぞ!

障害があるから障害者枠をうける、という流れや選択肢もあると思う。 でも自分は、障害から出発するのではなく、自分がどうしたいかをま ず考えた。その次に、採用してもらうのはどうしたらよいか、そして、 障害があったらどうしようか、と考えた。就職活動して思ったのが、「障 害があるから」で選ぶ可能性がせばまれることがあった。自分の夢や目

標を障害を関係なく考え てほしいです。障害があ るからといって、目標ま でかえてほしくない。自 分で自分の可能性や目標 を決めてほしいなと思っ てます。



〈07スカラー〉

豊田陽平 Yohei Toyoda



就活や職場の様子をインタビューしました

大学では、どんなことを勉強したか教えてください。

大学は私立大学・人間科学部に入学し、社会福祉士養成プログラムを受講 したり障害者福祉を専門にする先生のゼミに所属して学びました。

就活は、どんな活動をしましたか?

大学3年生の秋に、説明会やセミナーに参加。公務員試験を受けるこ とを決めたのは、3年の冬頃。公務員試験は、障害者雇用枠だけでな く、一般の枠も積極的に受験しました。並行して、大学職員や社会福 祉法人の事務職員の試験も受けましたね。公務員試験での配慮は、補 聴器の使用、指示・伝達事項を紙で掲示、面接の際の筆談対応を申請し、 許可を受けました。

お仕事について、また仕事をする上で、相談したり配慮を求めている ことを教えてください。

都庁にて事務職をしています。職場での配慮は、電話対応の免除と代 理で電話をかけてもらうこと。会議時に要約筆記をしてもらったりも ありました。

前の部署は私の他にもう1人聴覚障害のある職員がいたことと、要約 筆記が上手な職員が複数名いました。今の部署は障害のある職員がほ とんどおらず、障害の理解と配慮がないのが悩みです。早口で話され ることが多く、何度も聞き返すことや、ゆっくり話してほしいとお願 いするも改善してくれる人が少なかったり。職場の異動で、職場によっ て障害への理解の度合いにかなりの差があることを実感しました。根 気強く配慮を求めていかないといけないなと感じています。

後輩へメッセージをどうぞ!

仕事をする上で自分に 必要か配慮け何か けっ きりと自分で理解して、 説明できるようにしてお くことが大事だと思い ます。職場によっては、 求める配慮すべてが実 現できない場合があり ます。譲れないポイン トとそうでないポイント を明確にし、折り合い をつけつつ、長期戦で 配慮を求めていく姿勢 も必要です。



〈08 スカラー〉

蔵太紗希 Saki Kuramoto



大学選びと現在のお仕事についてインタビューしました

海外の大学に行ったんですよね。

小学6年生の時から、日本でインターナショナルスクールに通ってい ました。授業を英語で受けていたので、進学はアメリカを希望。短期 大学をワシントン州で卒業しました (心理学)。

就職を意識しはじめたのはいつですか?

まだまだ学びを続けようと思ってました。体の手術をするために一時 帰国したのですが、術後、体の状況も変わり、進学は難しいかなと感 じました。動けるようになってから少しづつアルバイトを始めたのが 働くきっかけだったかな。

どんな活動 (アクション) をされたんですか?

アルバイトをする中で、DO-IT との関わりが強くなり、障害のある学生たち のアドボケイトすることや、自分自身の声を上げていくことの大切さを実感 しました。アメリカの制度や考え方についてより深く知りたいと思い、2014 年に他団体の海外研修プログラムに応募し、インターンシップに参加しまし た。その後、帰国して日本でもそのような活動普及をしたいと思い、東大 先端研で働くことに。自分自身の経験も活かせると思ったから。他の学生 たちと一緒に何かしていきたいと自分の思いが強まった場所だったから。

どんなお仕事をされているか教えてください。

DO-IT Japan の事務局(運営補助、コーディネートや相談)。Access Reading の事務局で運営補助で、デスクワークが主かな。非常勤で週 4回勤務しています。連続して働くと体の疲れが出るので、いろいろ な働きのペースを試し、今の形になりました。人とかかわる瞬間だっ たり、これまでの私の経験が活かせる時、やりがいを感じています。



後輩へメッセージをどうぞ!

人はその場その場で最適もかわるしニーズもかわる。体の状態も同じ。 必要な配慮は相手と継続的にコミュニケーションをとっていくことが 大切。求められる形に自分をフィットさせることに時間をかけるより も、これだったらできるよ、こうしたらできるよって提案を持ってい る人の方が一緒に働くとしたら楽しそうだなと思っています。

〈07 スカラー〉

國光 良 Rvo Kunimitsu



どんな働き方をしているかインタビューしました

大学時代のこと、教えてください。

大学は、希望した私立大学の文化情報学部に入学して学びました。実 家から遠いこともあり、大学進学をきっかけに一人暮らし開始しまし た。これまでは実家だったので、介助者を利用する経験もなかったで すが、長時間の介助を必要とするため、介助者探しをしました。介助 者の人員不足があり、他の地域でも人を探したり。大学にいる時間は、 大学が介助者を手配してくれました。大学卒業後は、1日24時間介助 を受けながら一人暮らしをしています。

就活はどんな感じでしたか?

就活を意識したきっかけは、友人たちが一生懸命になっていて、就職 説明会や企業訪問をするようになりました。障害者雇用枠にエントリー シートを出したが、就業時に介助が必要などの問題点があり、面接ま で進むことができなかった。また、今後自分に呼吸器が必要になると 思い、エントリーの際に率直に書いた。そういった点もあったのかな。 大学を卒業後、障害の当事者として自立生活センターで働き、福祉内 容の専門学校への講演をし、給与少しもらっていました。このままやっ ていくのかなぁと考えた時期だったかな。

今の仕事を選んだ決め手は?

先端研のプロジェクト「AccessReading」の進捗・スタッフ管理職として 働いています。日常生活に介助や呼吸器が必要な私にとっては、在宅で 遠隔地にいても働くことができるのはとても合っていると思ってます。

どんな働き方をしてますか?

週4時間程度働いています。週1度、スカイプでミーティングに参加。 体調により、ミーティングを途中退席することを配慮として相談した りしています。ただ、最近体調が悪くなり、仕事をお任せすることが あったので、もし自分が休んだときにどういうことをやる必要がある か、今後共有したほうがよいと思いました。

働かなくても生活できる権利もあるけど、どう思いますか?

働かないでいると、逆 にだれてしまう。何か 目的があったほうがよ いと思う。今は、旅行 資金をためたいと思っ ているし、働きたいと いう気持ちがあります。 これまでも、北陸旅行 に行ったりしました。



32 スカラーチャレンジ | 卒業後の活躍

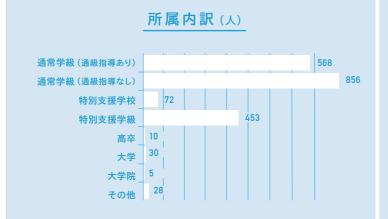
PAL プログラム

多様な障害を原因として、学びの困難を抱える本人とその保護者であれば、誰でも登録することができるプログラムです。テクノロジーを活用した学びの保障について学ぶ機会を、できる限り多くの困難を抱える学生に届けることを目的としたアウトリーチ・プログラムです。今年は、月1回配信するマガジンを発行したり、夏季プログラムの一部にて PAL 向けセミナーを開催しました。

[登録者内訳(2017年11月現在)]

PAL プログラムの参加人数は 2028 名となり、全国からの登録がありました。その他、アメリカやインドなどの海外からも登録がありました。





障害内訳

- ・発達障害 (LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害)
- ·視覚障害 · 肢体不自由 · 精神障害
- ・聴覚障害・言語障害 ・その他
- ·知的障害 · 内部障害

登録は DO-IT Japan ウェブサイトより常時行っております。(インターネット上で登録できます)
URL: http://doit-japan.org/

[PAL向けセミナー]

2017.8.9 / 夏季プログラム内にて

PAL プログラム登録者(本人またはその保護者)に向けてセミナーを行いました。全国より約 150 名の参加者が東大先端研に集合しました。

日本の教育場面における障害のある子どもたち



は分性 入即 部科学省 等中等教育局 別支援教育課

松本由布 文部科学省 初等中等制 教科書課

星加良司・近藤武夫 DO-IT Japan スタッフ

「特別支援教育」への転換

文科省初等中等教育局より施策について話題提供いただき、日本 の制度や教育の変化、障害の社会モデルについて共通理解を深め ました。

様々な学びと活躍をしている学生たち







河野俊寛・村田美和・奥山俊博 DO-IT Japan スタッフ

やりたいことにチャレンジしている DO-IT のスカラーたちを紹介しました。またスポーツなど学業以外でも活躍する人たちや、それを応援する活動について話題提供いただきました。





[PAL 向けメールマガジン]

月末に1回、学習を支援するテクノロジーの利用方法、配慮事例、DO-IT Japan によく寄せられる質問事項と回答、イベント参加などに関するメールマガジンを発行しています。

×

トピック (一部抜粋)

- □ 学習を支援するテクノロジーの利用方法
- □ ディレクターが皆さんに届けたいトピック
- □ 配慮事例
- □ おすすめ映画や書籍コラム
- □ DO-IT Japan によく寄せられる質問事項と回答
- □ DO-IT Japan からのお知らせ、その他お知らせしたいイベント・情報案内



34 PALプログラム **35**

共催・協力・後援の紹介

DO-IT Japan の運営は、設立初期から継続的に連携している共催企業 3 社を中心として、多くの企業と官公庁の産学連携により支えられています。2017 年度の共催・協力・後援をご紹介します。 (五十音順)

共催

ソフトバンクグループ (株式会社エデュアス、ソフトバンク株式会社) 夏季プログラム期間中、アコモデーションコース受講生のプログラムにて、タブレット端末を ご提供いただきました。また、スタッフの円滑なやりとりや緊急時の連絡のため、携帯電話を お貸しいただきました。最終日の公開シンポジウムでは、社内の雇用形態や指針、また新しい 働き方について話題提供いただきました。





日本マイクロソフト株式会社

夏季プログラムの3日目に、品川本社を研修会場としてご提供いただき、最新のテクノロジーの活用についての体験や実際に社内で働かれている社員の方と意見交換する時間をご提供いただきました。また、最新のテクノロジーや未来への可能性について、講義をしていただきました。最終日の公開シンポジウムでは、社内の雇用形態や指針、また新しい働き方について話題提供いただきました。





富士通株式会社

夏季プログラム最終日、一般公開シンポジウムにて、ワークスタイルについて話題提供いただきました。 また、DO-ITと共に多様な働き方についての検討を協同で進めています。





イースト株式会社



印刷物を読むことに困難がある人が、紙面の情報を得る手段として、 印刷物のテキストデータを利用し、パソコンの読み上げ機能を活用し、 耳から情報を得る方法があります。昨年度に引き続き、音声読み上 げ Word アドイン 「WordTalker」をご提供いただきました。

株式会社京王プラザホテル



一流のホテルでサービスを体験することは、将来の自分の振る舞いを考えるよい機会となります。昨年度に引き続き、夏季プログラム期間中、スイートルーム及びユニバーサルルームを含む宿泊プランをご提供いただきました。

株式会社トヨタレンタリース東京



体温調節が難しい人や体調に変化が起こりやすい人にとって、自身で移動する方法に加え、スムーズな移動方法の選択肢や社会サービスを知っていることは重要です、昨年度に引き続き、夏季プログラム期間中、リフト付き車両「ウェルキャブ(福祉車両)」を複数台お貸しいただきました。

特定非営利活動法人 サイエンス・アクセシビリティ・ネット



自分で読み書きすることに困難がある人にとって、パソコンを利用した学習は学びの可能性を広げてくれます。昨年度に引き続き、高度な数式や化学式の読み上げ・入力を補助してくれるソフト「ChattyInfty」をご提供いただきました。

株式会社沖データ

協力



毎年度新規スカラーが加わるため、夏季プログラムの参加者は毎年増えており、大量の印刷物をすばやく用意する必要があります。 昨年度に引き続き、夏季プログラム期間中、高性能なプリンター「COREFIDO C841dn」を複数台ご貸与いただき、配布資料や講演などの案内図に使用させていただきました。

株式会社テレウス



夏季プログラム 2 日目のアクティビティ「ツールド・DO-IT Japan! (P.9)」にて、「アダプタータイプ・ハンドバイク」をご貸与いただきました。また、スタッフさんにお越しいただきました。

テクノツール株式会社



支援機器があることで、楽に活動に参加できる人がいます。夏季 プログラム期間中、一定の高さで腕を支えてくれ、水平動作や肘 の屈曲による上方へのリーチをサポートする「MOMO」をご貸与 いただきました。

フォナック補聴器



ざわついた環境で先生の声など、特定の人の声を聞き分ける必要がある時、大きな負担を感じる人もいます。昨年度に引き続き、夏季プログラム期間中、補聴器援助システム「Roger(ロジャー)シリーズ:ロジャータッチスクリーンマイク・パスアラウンドマイク、デジマスターフォーカス」をご貸与いただきました。

後 援

厚生労働省
文部科学省

36 共催・協力・後援の紹介 37

DO-IT Japan の概要

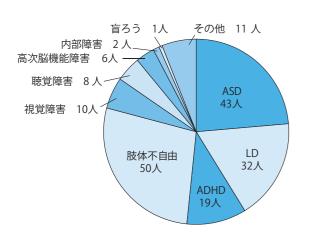
DO-IT Japan は、障害や病気のある小中高校生・大学生の高等教育への進学とその後の就労への移行支援を通じ、未来のリーダーを育てることをミッションとしています。

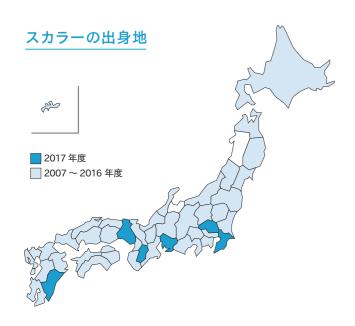
2007年度に開始され、障害のある学生にテクノロジーを提供し、必要な配慮を得た上で高等教育へ進学することを支援してきました。この10年で、これまで「学ぶ権利を得ること」を当たり前にするため、スカラーたちとともに取り組みを行ってきました。そしてこれまでになかった、いくつもの新しい配慮の前例がうまれてきました。

今年は、新しい10年の始まりとなる1年でした。イベントやオンラインにて、多くの仲間たち(同期スカラーや先輩スカラー、チューター・アテンダントと呼ばれる大学生ボランティア、アドバイザー等)と、コミュニケーションする機会がたくさんありました。様々な行動スタイルや意見、考え方に触れることで、ロールモデルを得たり、自己や他者、社会に対する視点を拡げる機会となりました。

「DO-IT Japan 2017 年度データ]

スカラーの障害内訳 ※重複あり





スカラーの大学進学者総数

	スカラー総数	大学進学者総数
2007年度	12	0
2008年度	23	3
2009年度	32	9
2010 年度	46	20
2011 年度	61	30
2012 年度	74	36
2013 年度	88	48
2014 年度	105	58
2015 年度	112	70
2016 年度	125	76
2017 年度	129	77

(就職:19人、大学院・専門学校進学:9人) ※ 2017 年 11 月現在 ※活動を休止しているスカラーを除く

メディア掲載 (2017年)

- ・朝日新聞 教育面「学習障害 手探りの配慮受験」(4/23)
- ·西日本新聞 生活面 「発達障害 IT で学び支援〈上〉」(7/20)
- ・西日本新聞 生活面 「発達障害 IT で学び支援〈下〉」(7/27)
- ·TBS ニュースバード (8/14)
- ・ICT 教育ニュース「Win10、読むことに困難のある児童生徒 に向けたアクセシビリティ」(8/14)
- · NHK うわさの保護者会 (11/11)

などその他多数

DO-IT Japan (スカラープログラム)への 参加の流れ

4月上旬頃

スカラー (中学生・高校生・高卒生・大学生) 募集発表

DO-IT Japan ウェブサイト (http://doitjapan.org/) やチラシ等で募集発表しま す。参加希望者はウェブサイトから応募 書類をダウンロードしてください。



4月中旬~5月上旬頃

スカラー応募期間

作成した応募書類を DO-IT Japan 事務局 へ郵送してください。



5月上旬頃

第一次選考(書類選考)

応募書類に基づき、審査委員会によって参加候補者を選考します。



5月中旬~6月上旬頃

第二次選考(面接)

第一次選考を通過した参加候補者と面接を行い、最終選考します。 その後新規スカラーが決定します。



7月上旬頃~

事前オンライン会議(プリプログラム)への参加

個人のニーズにあわせたパソコンや IC レコーダーなどの機器を貸与します。その後、インターネットを通じ、夏季プログラムへ参加するための準備ミーティングを行います。



8月上旬

夏季プログラムへの参加



8月中旬以降

オンライン・オフラインでの活動

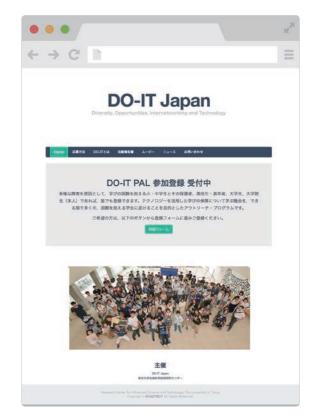
年間を通じて、メールやオンラインミーティング、ギャザリングなどの 様々な活動に参加することができます。



DO-IT Japan について

詳しくははホームページをご覧ください! http://doit-japan.org/





ホームページでは以下の情報やお知らせを掲載しています。

- □ これまでの年間活動報告書
 - (2008 年度~、PDF/ テキストファイルあり)
- □ 活動ムービー(オーディオ版 / テキスト版あり)
- □ 募集アナウンス(応募内容詳細、応募書類が掲載されます)
- □ DO-IT Japan の概要説明
- □ ニューズレター登録
 - (公開シンポジウムや交流会など、関連するイベントについてのお知らせをニューズレターとして配信しています)
- □ ニュース
- □ お問い合わせ窓口

お問合せ

DO-IT Japan 事務局

153-8904 東京都目黒区駒場 4-6-1 東京大学先端科学技術研究センター

人間支援工学分野

TEL & FAX: 03-5452-5228

MAIL: toiawase@doit-japan.org

WEBSITE : http://doit-japan.org/

38 DO-IT Japan の概要 39

